

第2章 戦争遺跡等の現状

第2章 戦争遺跡等の現状

1 近年の社会的動向

(1)文化財の種類、指定・選定・登録

ア 国

文化財保護法では、文化財を①有形文化財、②無形文化財、③民俗文化財、④記念物、⑤伝統的建造物群の5つに定義し、これらの文化財のうち、重要なものを重要文化財、史跡名勝天然記念物などとして国が指定選定し、重点的な保護の対象としている。このほか、近代を中心にした身近な文化財建造物を登録有形文化財に登録し、保護に努めている。国が指定などした文化財については、その種類に応じて、現状変更などに一定の制限を課す一方、修理などに対する国庫補助を行うなど、保存及び活用のため必要な各種の措置を講じている。

イ 地方

平成10年5月1日現在、全ての都道府県及び全国3,255市町村のうち3,148市町村（96.7%）において文化財保護条例が制定されている。条例に基づいて指定された文化財は、平成10年5月1日現在、都道府県で1万8,932件、市町村で7万9,161件にのぼっており、その数が年々増加している。

都道府県または市町村においては、これらの指定などが行われた文化財について、文化財保護条例に基づくなどして、所有者などによる管理、修理、公開などの事業に対して補助を行うなど、保存及び活用のため必要な各種の措置を講じている。

ウ 遺跡の保護

文化財保護法では遺跡は「記念物」に定義し、重要なものを「史跡」として指定している。平成13年現在、国・地方公共団体が指定している史跡は、国指定史跡1,461件、都道府県指定史跡2,584件、市区町村指定史跡1万2,968件、全体で約1万7,000件となっている。

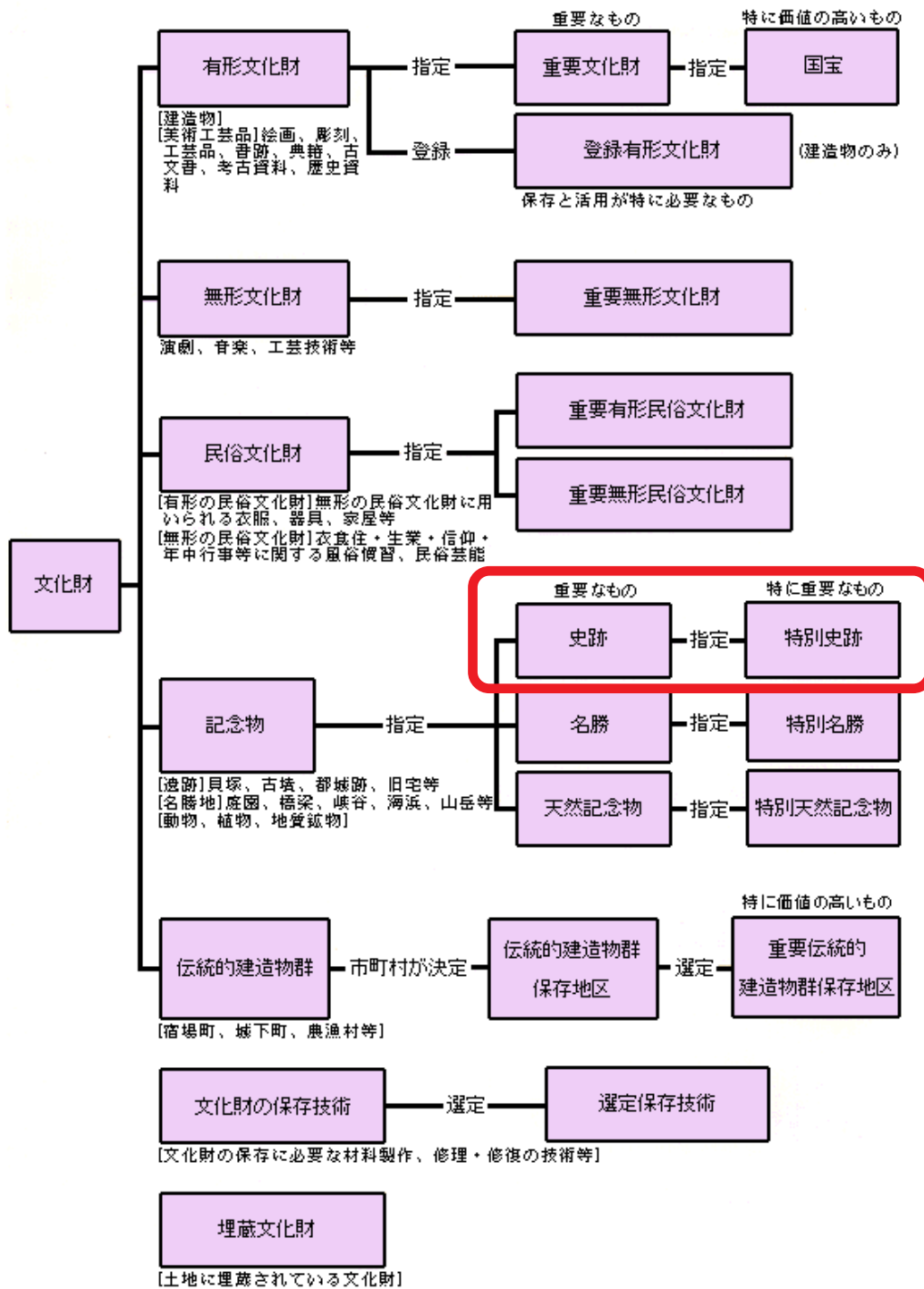
ただし、全国には現在約45万か所の遺跡が確認されており、国・地方公共団体に史跡として指定されている遺跡は約3.8%に留まっている。史跡に指定されない遺跡は、土木工事などが及ぶ場合、発掘調査による記録保存の措置がとられるため、消滅するものも少なくない。

図表2-1 国・地方公共団体の指定史跡（平成13年）

区 分	件 数
国指定史跡	1,461
都道府県指定史跡	2,584
市区町村指定史跡	12,968
合 計	17,013

資料：文化庁資料

図表 2-2 文化財の体系



資料：文化庁

(2) 近代遺産の保存・活用

ア 近代遺産

文化庁が設置した「近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議」は、平成6年9月から、近年における社会経済情勢の変化に伴い大きな課題となっている近代の文化遺産（①記念物、②建造物、③美術・歴史資料、④生活文化・技術の4分野）の保存と活用の在り方について調査研究を行ってきた。

報告書によると、近代の文化遺産は、記念物、建造物、美術・歴史資料及び生活文化・技術のいずれの分野をとっても、開発の進展、技術革新や情報化の進展、生活様式の変化などにより、消滅や散逸などの危機にさらされているものが多く、他方、未だ必ずしも文化財としての認識や評価が定着していないため、保護措置が十分には講じられていないという状況にある。これらは、一旦失われてしまうと回復ができないものであるため、価値があると認められるものについては適切に保存し、後世に継承していくことが課題となっている。

平成12年現在の国の時代別指定件数をみると、史跡指定された遺跡のうち、近代遺跡の指定件数は16件に留まっており、全体の1.1%に留まっている。

図表 2-3 時代別にみた国指定の史跡数（平成12年）

区 分	原始	古代	中世	近世	近代	計
貝塚・古墳等	580	8	1			589
都城跡等		70	129	79	3	281
社寺跡等		185	40	10		235
学校その他教育・学術・文化に関する遺跡		1	1	20	2	24
医療施設その他社会・生活に関する遺跡			3	3		6
交通施設その他経済・生産活動に関する遺跡	9	33	20	70	9	141
墳墓・碑等		10	9	49	1	69
旧宅・園地等		6	20	57		83
外国及び外国人に関する遺跡				6	1	7
合 計	589	313	223	294	16	1,435

資料：文化庁資料

イ 近代文化遺産の保護のあり方

「近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議」報告書では、近代の文化遺産の保護のあり方として、①指定制度による保護、②登録制度など多様な手法による保護、③地方公共団体における保護の3つを示している。

①指定制度による保護

文化財の指定基準の見直しを行い、重要な近代の文化遺産については、史跡等として指定を促進する。

②登録制度など多様な手法による保護

多様かつ大量の近代の建造物等を幅広く後世に継承していくには、強い規制と手厚い保護

措置を講ずる指定制度に加えて、届出制と指導、助言、勧告を基本とするゆるやかな保護措置を講じる登録制度により、文化財の保護手法の多様化を図る。

③地方公共団体における保護

各地方公共団体において、国における以上のような施策等も参考にしつつ、近代の文化遺産について指定等による保護の措置をとるよう検討する。

ウ 近代の文化遺産の保護推進のための重点課題

「近代の文化遺産の保存・活用に関する調査研究協力者会議」報告書では、近代の文化遺産の保護推進のための重要課題として、次の7点をあげている。

①全国的調査の実施

近代の文化遺産の所在状況等に関する体系的な調査の推進と把握への努力。

②情報の蓄積・整理の促進

所在、形状や保存状況等の情報を蓄積していくための文化財情報システムの構築及び全国ネットワーク化の一層の促進。

③公開の促進

適切な保存を図るため、記念物や建造物自体の使用など、公開についての柔軟な対応。

④保存方法等の研究開発の推進

多様な文化遺産の修理技術等の保存方法の研究開発の推進、国立文化財研究所（（現）独立行政法人文化財研究所）等の機能の充実強化。

⑤人材の養成研修

専門的人材の養成・確保、地方公共団体の文化財関係職員、博物館・資料館等の職員を対象とした研修の充実。

⑥関係省庁・機関・団体等の連携協力の強化

関係省庁、大学や博物館等の機関、企業、団体等との連携協力を強化。

⑦国民の理解協力の増進

文化財の保護を推進するためには、国民の理解と協力の涵養（青少年に対しては、学校教育及び社会教育を通じて文化財に親しむ機会の拡充等）

エ 千葉県における取組

千葉県では、平成7年から10年まで「千葉県産業・交通遺跡実態調査」を実施している。同調査は、近代化に伴って構築された様々な構造物の保存・活用を図るための基礎資料となるよう、幕末から第2次世界大戦終了時までには構築された、県内の産業及び交通、土木に係わる建造物などについて所在、目的などについての把握を行ったものである。同調査で把握された物件は、産業関係遺跡83、交通関係遺跡154、その他30、合計267となっている。

図表2-4 「千葉県産業・交通遺跡実態調査」で把握された千葉県内の近代遺跡

区分	遺跡数	区分	遺跡数
産業関係	83	鉄道	59
農業	44	駅舎	18
堰堤	24	軌道	4
記念碑	8	橋梁	24
堤防	1	機関車	3
排水施設	3	道路橋	3
揚水施設	2	隋道	7
用水路	1	海事	6
用水	4	船入場	1
溜池	1	灯台	4
漁業	2	突堤	1
水産加工場	1	土木関係	25
倉庫	1	河川	18
牧畜業	3	運河	1
厩舎	1	堰	1
記念碑	1	橋	1
牧場	1	護岸	1
鉱業	1	水運	1
天然瓦斯	1	堤防	7
醸造業	17	樋	1
工場	2	樋門	3
事務所	4	閘門	1
醸造所	10	その他	1
倉庫	1	上下水道	7
食品業	4	給水塔	1
工場	2	源泉	1
事務所	1	水源地	1
その他	1	貯水槽	1
商業	9	配水池	1
銀行	1	配水塔	1
商店	5	堰堤	1
商店・倉庫	1	その他	30
倉庫	1	軍施設	23
長屋門	1	公園	2
その他	2	水準原標	1
交通関係	154	水塚	1
道路	89	防空壕	1
記念碑	2	無線施設	1
供養塔	1	郵便局	1
常夜塔	1	合計	267
人道橋	3		
道標	47		
道路	1		
道路橋	24		
隋道	10		

資料：千葉県「千葉県産業・交通遺跡実態調査」（平成10年12月）を基に作成

(3) 戦争遺跡の保存・活用

ア 指定基準

国の「史跡名勝天然記念物指定基準」（平成7年3月6日文部省告示第24号（第2次改正））における史跡に係る基準は以下のとおりとなっている。

- ① 史跡指定対象の時期は当面第二次大戦終結頃まで
- ② 都城跡、国郡庁跡、城跡、官公庁、戦跡その他政治に関する遺跡で、歴史的・学術的に価値があるもの

イ 分類・区分

近代文化遺産の分類として、文化庁が設置した「近代遺跡の調査等に関する検討会」で示した「近代遺跡調査実施要領」では、対象遺跡の時期を幕末・開国期から第二次大戦終結頃までとし、調査対象遺跡の分野区分を経済・社会・政治・文化・その他の11分野とした。このうち、戦争遺跡は政治分野のほか、重工業、交通・運輸・通信業、社会、文化分野などにもみられる。

図表 2-5 近代文化遺産の分類

区分	摘要
① 鉱山	鉄山 銅山 金銀山 その他各種鉱山(選鉱場、精錬所、軌道施設等の関連施設を含む)
② エネルギー産業 (鉱山を除く)	炭鉱 油田 発電所 その他
③ 重工業	製鉄 冶金 機械 造船 自動車 石油コンビナート その他
④ 軽工業	紡績 製糸 その他繊維産業 食品 化学 窯業 セメント 地場産業 その他
⑤ 交通・運輸・通信業	鉄道 道路 橋梁 燧道 倉庫 灯台 運河 河川・堤防 飛行場 郵便 電信電話 その他
⑥ 商業・金融業	会所 商館 商店・百貨店 市場 会社 金融機関(銀行証券取引所等) その他
⑦ 農林水産業	農業(灌漑施設、干拓施設、農業試験場等) 牧畜 開拓林業(貯木場、製材所、森林軌道等) 漁業(漁港、番屋、養殖施設、水産加工施設等) 養蚕業(蚕室、蚕種製造所、繭集荷場等) 製塩業 その他
⑧ 社会	上下水道施設 都市開発 集合住宅 公衆浴場 公園 保健医療施設(病院、診療所、療養所等) 社会福祉施設(孤児院、養老院、保健所授産施設等) 娯楽・観光施設(映画館、芝居小屋、遊園地等) 災害 公害・労働争議等社会運動に関する遺跡 その他
⑨ 政治	行政(郡役所、地方自治体の庁舎、官庁等) 立法(議事堂等) 司法(裁判所、刑務所等) 政党・政治結社等政治的活動および政治的事件に関する遺跡 外交(税関、領事館等) 軍事に関する遺跡 その他
⑩ 文化	学校研究施設(研究所、試験場、実験場、天文台等) 文化施設(文庫、図書館、美術館、博物館、音楽堂、劇場等) 出版・報道に関する施設 競技場等のスポーツ施設 その他
⑪ その他	①～⑩に属しない分野

資料：十菱駿武、菊池実編『しらべる戦争遺跡の事典』（平成14年）

ウ 指定遺跡

わが国では、沖縄県南風原町の南風原陸軍病院壕が日本初の指定史跡（町指定）になったことがきっかけになり、戦争遺跡のうち指定史跡となったものは、現在、国指定8件、県指定4件、市指定20件、町指定18件、村指定2件となっている。また、国の登録有形文化財は18件となっている。指定史跡のうち、千葉県では、安房郡富浦町大房岬要塞群の12件が一括して町指定史跡となっている。

図表2-6 戦争遺跡のうち指定史跡となったもの（平成13年現在）

区分	遺跡名
国指定 8件	①札幌市琴似屯田兵村兵屋 ②旭川市陸軍第七師団旭川街偕行社（旭川市彫刻美術館・重要文化財） ③青森県弘前市陸軍第八師団偕行社（弘前女子厚生学院記念館・重文） ④東京都千代田区近衛師団司令部庁舎（東京国立近代美術館工芸館・重要文化財） ⑤金沢市陸軍第九師団兵器庫（石川県立歴史博物館・重要文化財） ⑥広島市原爆ドーム（広島県物産陳列館、世界文化遺産登録） ⑦広島県呉市海軍呉鎮守府司令官官舎（入船山記念館） ⑧香川県善通寺市陸軍第一師団偕行社（善通寺市立郷土館）
県指定 4件	①北海道江別市野幌屯田兵第二中隊本部一屯田資料館一 ②美唄市美唄屯田兵兵屋 ③根室市和田屯田兵村大隊本部被服庫 ④厚岸町太田屯田兵兵屋
市指定 20件	①北海道札幌市新琴似屯田兵中隊本部 ②江別市江別屯田大隊本部火薬庫 ③旭川市永山屯田兵屋（旭川市郷土博物館） ④室蘭市輪西屯田兵火薬庫 ⑤士別市士別屯田兵屋 ⑥北見市野付牛屯田第四大隊第一中隊本部被服糧秣庫 ⑦北海道稚内市大岬海軍望楼 ⑧青森県青森市幸畑陸軍墓地 ⑨歩兵第五連隊八甲田山遭難記念碑（市有形文化財） ⑩宮城県仙台市陸軍第二師団歩兵第四連隊兵舎（仙台市歴史民俗資料館・市有形文化財） ⑪群馬県高崎市高崎陸軍元ロシア人兵士墓地 ⑫東京都東大和市日立航空機立川工場変電所 ⑬京都府舞鶴市舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫（舞鶴市赤煉瓦博物館） ⑭大阪府枚方市陸軍香里製造所煙突（市史跡） ⑮広島県呉市海軍工廠塔時計（市有形文化財） ⑯広島市広島陸軍糧秣支廠缶詰工場（広島市郷土資料館・市重要有形文化財） ⑰大分県宇佐市城井一号掩体壕 ⑱長崎県島原市からゆき塔女のドーム（アジアの慰安婦供養塔・市文化財） ⑲鹿児島県川内市天狗鼻海軍望楼台 ⑳沖縄県沖縄市美里国民学校奉安殿、忠魂碑
町指定 18件	①北海道剣淵町剣淵屯田兵屋 ②北海道美瑛町陸軍演習場廠舎門柱 ③北海道上富良野町東山尋常高等小学校御真影奉置所 ④～⑯千葉県富浦町大房岬要塞群（弾薬庫二棟、砲台跡、観測所跡、幕末砲台跡二基、掩灯所、探照灯格納庫、発電所、火薬庫、射的場、魚雷艇発信所）12件 ⑰三重県紀和町外人墓地（紀州鉾山労働英国人捕虜墓地） ⑱沖縄県南風原町南風原陸軍病院壕
村指定 2件	①群馬県東村防空監視哨跡 ②沖縄県伊江村公益質屋
国登録有形 文化財 18件	①札幌市西岡水源地取水塔（陸軍水道施設） ②旭川市陸軍第七師団騎兵第七連隊覆馬場（あさでん春光整備工場） ③宇都宮市旧陸軍第六歩兵連隊倉庫（宇都宮中央女子高校倉庫） ④神奈川県横須賀市海軍軍港水道貯水池（市水道局走水水源地煉瓦造貯水池） ⑤横須賀市横須賀軍港水道浄水池（市水道局走水水源地 RC 造浄水池） ⑥金沢市陸軍第九師団司令部庁舎、 ⑦陸軍金沢偕行社（石川県庁舎石引分室） ⑧豊橋市陸軍第一五師団司令部庁舎（愛知大学記念館） ⑨京都市外務省東方文化研究所（京都大学人文科学研究所付属漢字情報研究センター） ⑩京都市近鉄澁川橋梁（陸軍演習用東洋一の鉄橋） ⑪舞鶴市赤煉瓦ホフマン窯（舞鶴軍事建物用煉瓦生産遺構） ⑫舞鶴市海軍鎮守府水源地堰堤 ⑬浜田市歩兵第二連隊雨覆練兵場（浜田高校体育館） ⑭歩兵第二連隊雨覆練兵場（第一中学校屋内運動場） ⑮呉市宮原浄水場低区配水池（軍用水道）

資料：十菱駿武、菊池実編『しらべる戦争遺跡の事典』（平成14年）より作成

図表2-8 市内指定文化財の一覧（平成14年現在）

番号	種類	名 称	所在地等	所有者(伝承者)	指定年月日	員数(面積)
重要文化財						
1	有工	梵鐘(弘安九年在銘)	出野尾859	小網寺	1961. 6.30	1口
2	有彫	銅造千手観音立像	那古1125	那古寺	1984. 6. 6	1?
3	民有	房総半島の漁撈用具	県立安房博物館	千葉県	1987. 3. 3	2,144点
千葉県指定文化財						
1	民有	神余の弘法井戸	神余巴川	神余区	議決1955.12.15 告示1975.11.14	
2	民無	洲崎踊り	洲崎神社	洲崎神社氏子	1961. 6. 9	
3	有建	那古寺多宝塔 附木造宝塔	那古1125	那古寺	1965. 4.27	各1基
4	有工	小網寺鑄銅密教法具	出野尾859	小網寺	1966. 5.20	21点
5	記史	安房神社洞窟遺跡	大神宮589	安房神社	1967. 3. 7	100㎡
6	記天	沼サンゴ層	沼521-3	館山市	1967. 3. 7	99㎡
7	記史	鉦切洞穴	浜田376	船越鉦切神社	1967.12.22	250㎡
8	有工	繡字法華経普門品	那古1125	那古寺	1969. 1.10	1巻
9	有建	大巖院四面石塔 附石製水向	大網398	大巖寺	1969. 4.18	1基・4個
10	無	唐棧織	長須賀48-2	斎藤頼・光司	1970. 1.30	
11	記天	洲崎神社自然林	洲崎1697他	洲崎神社	1972. 9.29	16,406㎡
12	記天	布良の海食洞と鍾乳石	布良443-1	葵開発工事(株)	1978. 2.28	304㎡
13	有建	手力雄神社本殿	大井1129	手力雄神社	1980. 2.22	1棟
14	無	綴錦織	八幡23	和田秋野	1982. 4. 6	
15	有彫	木造阿弥陀如来坐像	那古1125	那古寺	1984. 2.24	1?
16	有彫	木造如来形坐像	大神宮704	千祥寺	1986. 2.28	1?
17	有建	石井家住宅	畑1117	石井喜代治	1990. 3.16	1棟
18	記史	安房国分寺跡	国分959-2	国分寺	1992. 2.28	2,109.08㎡
19	有建	那古寺観音堂 附厨子	那古1125	那古寺	1994. 3.22	1棟・1基
20	有絵	絹本着色僧形八幡神像	那古1125	那古寺	1994. 3.22	1幅
21	有建	千葉県立安房南高等学校旧第一校舎	北条611	千葉県	1995. 3.14	1棟
22	有民	房総半島の万祝及び紺屋製作用具	県立安房博物館	千葉県教育委員会	2000.2.25	一括
館山市指定文化財						
1	有考	船越鉦切神社奉納独木舟	浜田376	船越鉦切神社	1957.12.16	1隻
2	記史	安房国分寺跡	国分958-1他	国分寺	1957.12.16	
3	記天	オオウナギ	佐野川一帯		1958. 7.16	
4	記史	館山城跡	館山362-3他	国・館山市	1960. 6.16	
5	有書	検地帳	館山市立博物館	館山市・竹原区	1961.10.21	46冊
6	記天	沼のびやくしん	沼443	十二天神社	1961.10.21	1樹
7	民有	狛犬・燵箱・木椀	大神宮589	安房神社	1962. 7.23	1対・1口・1口
8	有彫	那古寺木造千手観音立像	那古672	那古寺	1963.12.17	1?
9	記天	沼サンゴ層	南条518-2	(南条)八幡神社	1965. 4.21	99㎡
10	有考	鶴谷八幡神社棟札	八幡76	鶴谷八幡神社	1965. 4.21	3枚
11	有建	鶴谷八幡神社本殿	八幡76	鶴谷八幡神社	1967. 2.21	1棟
12	有建	洲崎神社本殿	洲崎1344(1697)	洲崎神社	1967. 2.21	1棟
13	有書	十二因縁論	大網398	大巖院	1968. 12.23	1巻
14	記史	雄誉上人墓	大網398	大巖院	1968. 12.23	1基
15	有絵	慈恩大師画像	大網398	大巖院	1968. 12.23	1巻
16	有書	絹本名号本尊	大網398	大巖院	1968. 12.23	1巻
17	有考	元應板碑	大網398	大巖院	1968. 12.23	1基
18	有彫	木造阿弥陀如来坐像	大網398	大巖院	1968. 12.23	1?
19	有彫	慶長十三年紀年肖像彫刻二?	大網398	大巖院	1968. 12.23	2?
20	有書	洲宮神社縁起	洲宮921	洲宮神社	1969. 2.21	1巻

21	有考	祭祀用土製模造品	洲宮921	洲宮神社	1969. 2.21	7箇
22	有彫	木造天部像	洲宮921	洲宮神社	1969. 2.21	1?
23	民無	洲宮神社御田植神事	洲宮921	洲宮神社氏子	1969. 2.21	
24	有書	岡嶋家所伝安房忌部系図	大神宮570	岡嶋成鑑	1969. 2.21	1巻
25	有工	双鳥花草文八段鏡・双鳥花草文円鏡	大神宮589	安房神社	1969. 2.21	各1面
26	有考	安房神社高坏	大神宮589	安房神社	1969. 2.21	1口
27	記天	那古山自然林	那古670-2	那古寺	1970. 2.20	11,074.4㎡
28	記天	那古寺の大蘇鉄	那古672	那古寺	1970. 2.20	1樹
29	有彫	磨唐十一面観音立像	船形835	大福寺	1970. 2.20	1?
30	有考	坂井翁作古墳出土環頭の大刀・圭頭 の大刀	館山市立博物館	館山市	1970. 2.20	各1振
31	有工	船越鉦切神社鰐口	浜田376	船越鉦切神社	1970. 8.26	1口
32	民有	洲崎神社神体髪	洲崎1344(1697)	洲崎神社	1970. 8.26	
33	有書	洲崎大明神縁起	洲崎1344(1697)	洲崎神社	1970. 8.26	1巻
34	民無	船越鉦切神社かつこ舞 海南刀切神社かつこ舞	浜田376 見物788	船越鉦切神社 海南刀切神社	1970. 8.26	
35	有彫	木造聖観音立像	出野尾859	小網寺	1972. 1.21	1?
36	記史	大寺山巖窟墓及び出土品等	沼1131	総持院	1972. 1.21	一括
37	記天	手力雄神社の大杉	大井1139	手力雄神社	1972. 1.21	1樹
38	民無	藤原神社獅子神楽	藤原区	藤原神社氏子	1973. 3. 3	
39	民無	古茂口獅子神楽	古茂口区	古茂口獅子神楽保存会	1973. 3. 3	
40	有建	千手院宝篋院塔	安東503	千手院	1973. 3. 3	1基
41	有彫	鶴谷八幡神社百態の龍	八幡76	鶴谷八幡神社	1974. 2.21	1式
42	記史	三義民刑場跡及び墓	国分99-3,959	国分区長	1974. 2.21	
43	記史	大神宮義民7人様の供養碑	大神宮704-1	千祥寺	1974. 7.19	1基
44	記天	滝川のびやくしん	山本2418	木幡神社	1977.10.20	1樹
45	民有	舎那院山の磨崖佛	大綱119	舎那院	1980. 3.21	1?
46	記史	やぐら	水岡413	田中義夫	1981.10.21	1基(115㎡)
47	有工	刀銘「守家」	八幡76	鶴谷八幡神社	1983.10.25	1振
48	有工	水晶製六角五輪塔形舍利塔	神余4612	自性院	1986. 7.22	1基
49	記史	孝子塚	国分1241	国分区長	1986. 7.22	555㎡
50	有彫	石造地藏菩薩坐像	安東503	千手院(安東区長)	1987. 8.25	1?
51	有絵	歌舞伎大絵馬	那古1125	那古寺	1988. 6.28	1面
52	民無	巖島神社の湯立神事	西川名1315	巖島神社氏子総代	1988.10.21	
53	民無	茂名の里芋祭	茂名238	茂名区長	1988.10.21	
54	有彫	木造阿弥陀如来坐像	神余4612	自性院	1990. 7.23	1?
55	有彫	木造地藏菩薩立像	竹原1563	相賀組	1990. 7.23	1?
56	有歴	高瀬家文書	那古1039	高瀬 昭	1992. 3.25	1冊
57	有建	応永8年在銘宝篋院塔	香311	野中 正	1994.12.24	1基
58	民無	山荻神社の筒粥神事	山荻334	山荻神社氏子総代	1994.12.24	
59	民無	鶴谷八幡神社の筒粥神事	八幡68	鶴谷八幡神社	1994.12.24	
60	民無	神余日吉神社のかっこ舞	神余931	神余日吉神社のかっこ舞保 存会	1996. 6.25	
61	記天	諏訪神社自然林	正木4293-1の一部	宗教法人諏訪神社	2001. 6.28	24,558㎡

(注) 有建：有形文化財建築物、有絵：有形文化財絵画、有彫：有形文化財彫刻、有工：有形文化財工芸品、有書：有形文化財書籍典籍等、有考：有形文化財考古資料等、有歴：有形文化財歴史資料等、無：無形文化財、民有：有形民俗文化財、民無：無形民俗文化財、記史：史跡、記天：天然記念物

資料：館山市教育委員会資料

(2) 近代遺跡の状況

市内の近代遺跡は、文化財としての指定・登録は行われていないが、本市が港湾都市であることや首都防衛における東京湾要塞地帯に位置していたことから、産業・軍事関係の近代遺跡が多数残されている。千葉県『千葉県の産業・交通遺跡実態調査報告書』には、交通関係遺跡12物件、軍事施設関係遺跡15物件が掲載されている。しかし、軍事施設関係遺跡については、掲載以外の物件も相当数残されていることや、掲載されている各物件についても、名称、竣工年、目的などについても未確認の事項が多くなっている。

図表2-9 県調査で所在確認されている市内近代遺跡（平成10年現在）

区分	名称	所在地	竣工年	構造・特徴
交通関係	道路	塩井戸橋	明治44年	石造アーチ形上路橋
		境橋	昭和14年	鉄筋コンクリート
		潮留橋	昭和4年	鉄筋コンクリート2径間連続T桁橋
		府中橋	昭和13年	鉄筋コンクリートT桁橋
		要橋	昭和7年	鉄筋コンクリートT桁橋
		巴橋	明治39年	石造アーチ形上路橋
	鉄道	J R 東日本館山駅	大正14年	木造 ※平成11年新駅舎に建て替え
		J R 東日本九重駅	大正10年	木造平屋
		J R 東日本那古船形駅	—	木造平屋
	海事	洲崎灯台	大正8年	コンクリート
		正木灯	大正5年	石造
		船形突堤	明治6年	鉄筋コンクリート造防波堤
その他	軍事施設	館山海軍航空隊赤山地下壕	昭和19年頃	—
		館山海軍航空隊掩体壕	—	鉄筋コンクリート造
		館山海軍航空隊掩体壕	—	鉄筋コンクリート
		洲ノ埼海軍航空隊堰	—	コンクリート
		洲ノ埼海軍航空隊御神影奉安所跡	—	—
		洲ノ埼海軍航空隊射撃場	昭和18年頃	—
		洲ノ埼海軍航空隊防火用水跡	昭和18年頃	コンクリート造
		洲崎第一砲台	昭和7年	—
		戦闘指揮所、作戦室	昭和19年	—
		水上特攻艇「震洋」出撃地	昭和20年	—
		館山海軍砲術学校跡	昭和16年	—
		館山海軍砲術学校パラシュート降下訓練用プール	—	コンクリート造
		館山海軍砲術学校ボイラー室	—	レンガ造
		館山海軍砲術学校化学兵器実験施設跡	—	コンクリート造
		東京湾要塞第一区地帯標	昭和16年	—

資料：千葉県「千葉県産業・交通遺跡実態調査」（平成10年12月）を基に作成

3 戦争遺跡の現状

(1)調査の方法

先にみたとおり、市内の戦争遺跡の所在などについては、十分に把握されていないこともあり、本調査研究委員会において、戦争遺跡実態調査を実施した。調査の実施概要は下記のとおりとなっている。

図表 2-10 戦争遺跡実態調査の概要

区分	日程	摘要
現地調査	平成 14 年 7 月 22 日、23 日	調査研究委員会委員、館山市企画課、館山市教育委員会生涯学習課、地方自治研究機構等による市内主要戦争遺跡の視察調査を実施
第 1 回専門委員調査	平成 14 年 8 月 28 日、29 日	原委員（防衛庁防衛研究所調査員）、館山市企画課、館山市教育委員会生涯学習課、地方自治研究機構による市内主要戦争遺跡の所在確認調査
主要戦争遺跡安全確認調査	平成 14 年 8 月下旬	(株)ジェド・日本環境ダイナミックス、大成基礎設計(株)による、館山海軍航空隊赤山地下壕の地形、地質、地層、危険箇所等に関する調査
第 2 回専門委員調査	平成 14 年 10 月 24 日、25 日	原委員（防衛庁防衛研究所調査員）、館山市企画課、館山市教育委員会生涯学習課、地方自治研究機構による市内主要戦争遺跡の所在確認調査



現地調査前の事前協議



現地調査（館山海軍航空隊赤山地下壕）



現地調査（館山海軍航空隊宮城掩体壕）



現地調査（洲ノ埼海軍航空隊戦闘指揮所）

(2) 調査結果からみた現状

ア 物件数

今回の調査において把握できた戦争遺跡は47件となっている。所属関係別にみると、①館山海軍航空隊関係15件、②洲ノ埼海軍航空隊関係6件、③館山海軍砲術学校関係6件、④第59震洋隊関係2件、⑤横須賀防備隊関係3件、⑥第2海軍航空廠館山補給工場関係3件、⑦横須賀軍需部館山支庫関係4件、⑧東京湾要塞関係8件となっている。

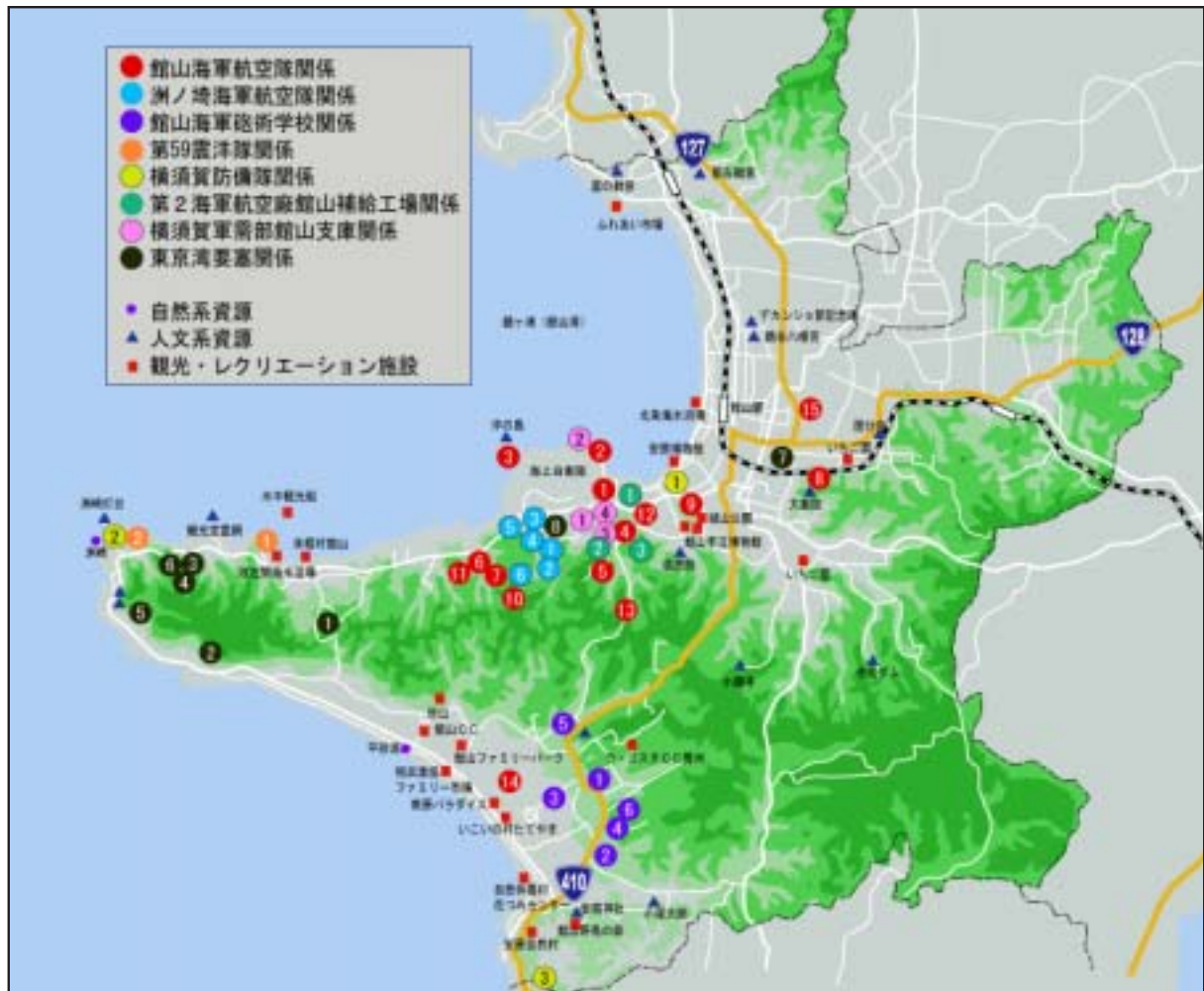
イ 物件の種類

種類別にみると、基地・指揮所6件、防空壕3件、掩体壕・格納庫4件、保管用倉庫7件、砲台8件、その他19件となっている。

図表2-11 所属関連・種類別にみた市内戦争遺跡の状況

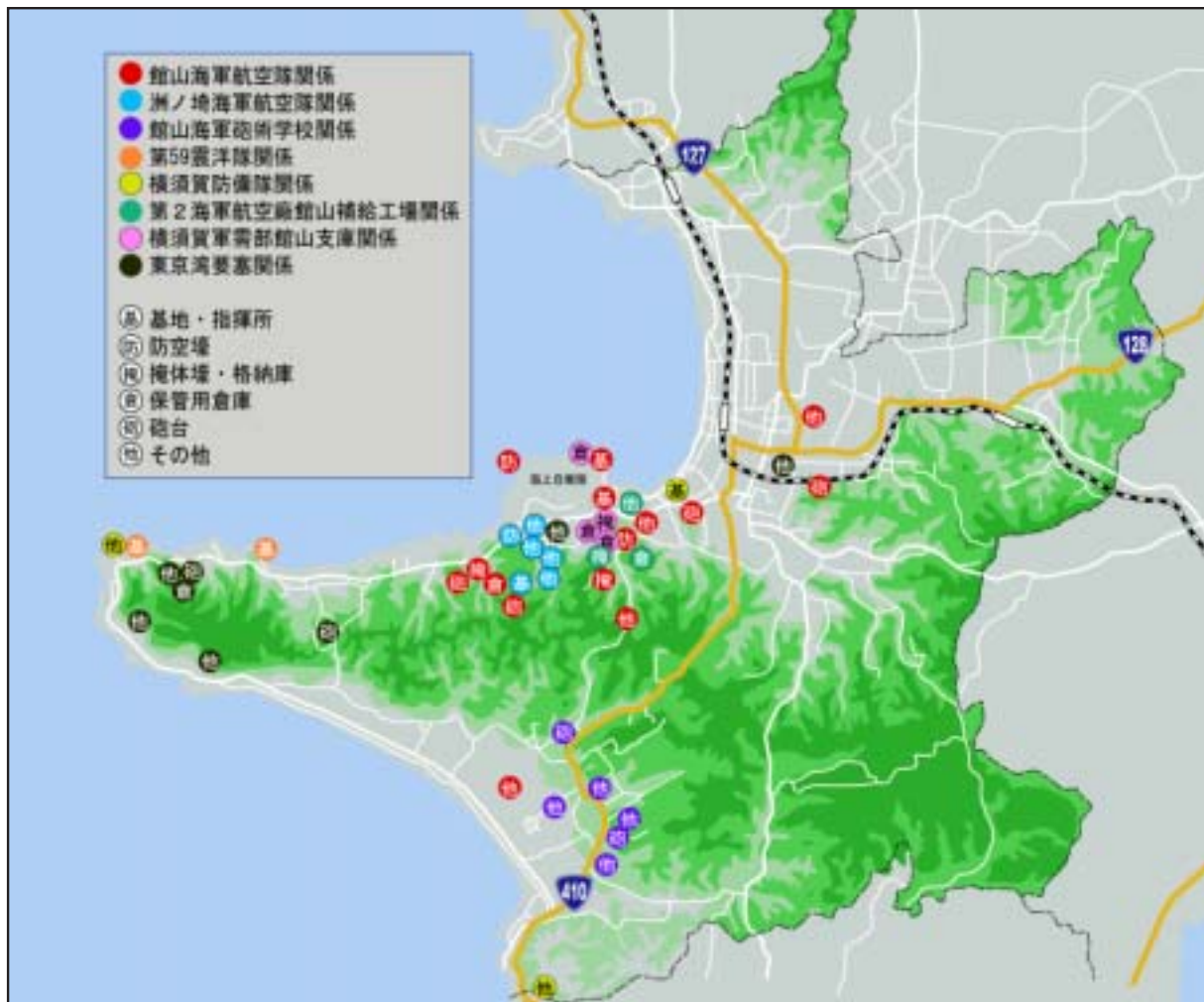
区 分	物件数	種 別						備 考
		基地・指揮所	防空壕	掩体壕・格納庫	保管用倉庫	砲台	その他	
計	47	6	3	4	7	8	19	—
館山海軍航空隊関係	15	2	2	2	1	4	4	館山地区に集積
洲ノ埼海軍航空隊関係	6	1	1	—	—	—	4	館山地区笠名に集積
館山海軍砲術学校関係	6	—	—	—	—	2	4	神戸地区に集積
第59震洋隊関係	2	2	—	—	—	—	—	西岬地区に集積
横須賀防備隊関係	3	1	—	—	—	—	2	—
第2海軍航空廠館山補給工場関係	3	—	—	1	1	—	1	—
横須賀軍需部館山支庫関係	4	—	—	1	3	—	—	—
東京湾要塞関係	8	—	—	—	2	2	4	—

図表 2-12 所属関連別にみた市内戦争遺跡の分布状況



- **館山海軍航空隊関係 (15)**
 - ①館山海軍航空隊基地
 - ②館山海軍航空隊水上機基地
 - ③沖ノ島防空壕
 - ④館山海軍航空隊赤山地下壕
 - ⑤館山海軍航空隊宮城掩体壕
 - ⑥館山海軍航空隊香掩体壕
 - ⑦館山航空隊爆弾庫
 - ⑧大網砲台
 - ⑨城山砲台
 - ⑩二子山砲台
 - ⑪寺山砲台
 - ⑫館山海軍航空隊方位測定所
 - ⑬貯水地 (ダム)
 - ⑭平砂浦爆撃場
 - ⑮館山海軍航空隊上の原送信所
- **洲ノ埼海軍航空隊関係 (6)**
 - ①洲ノ埼海軍航空隊射撃場
 - ②洲ノ埼海軍航空隊 (防火用水跡)
 - ③洲ノ埼海軍航空隊武道館跡
 - ④洲ノ埼海軍航空隊御真影奉安所
 - ⑤洲ノ埼海軍航空隊防空壕
 - ⑥洲ノ埼海軍航空隊戦闘指揮所
- **館山海軍砲術学校関係 (6)**
 - ①館山海軍砲術学校跡 (飛行特技訓練プール、釜場、戦車橋)
 - ②犬石射撃場跡
 - ③化学兵器実験施設跡
 - ④東砲台跡
 - ⑤西砲台跡
 - ⑥配水池
- **第59震洋隊関係 (2)**
 - ①第59震洋隊波左間基地
 - ②第59震洋隊洲崎基地
- **横須賀防備隊関係 (3)**
 - ①魚雷艇基地
 - ②洲崎防備衛所
 - ③布良見張所
- **第2海軍航空廠館山補給工場関係 (3)**
 - ①館山補給工場
 - ②魚雷格納庫
 - ③隧道弾薬庫
- **横須賀軍需部館山支庫関係 (4)**
 - ①館山支庫倉庫
 - ②鷹の島燃料庫
 - ③赤山燃料庫跡
 - ④隧道格納庫
- **東京湾要塞関係 (8)**
 - ①洲崎第1砲台
 - ②坊の山観測所
 - ③洲崎第2砲台
 - ④洲崎第2砲台砲側庫・炸薬充実所
 - ⑤洲崎観測所
 - ⑥洲崎弾薬支庫
 - ⑦東京湾要塞第1区地帯票
 - ⑧東京湾要塞第1区地帯票

図表 2-13 種類別にみた市内戦争遺跡の分布状況

**基地・指揮所 (6)**

- 館空① 館山海軍航空隊基地
- 館空② 館山海軍航空隊水上機基地
- 洲空⑥ 洲ノ埼海軍航空隊戦闘指揮所
- 震洋① 第59震洋隊波左間基地
- 震洋② 第59震洋隊洲崎基地
- 横防① 魚雷艇基地

防空壕 (3)

- 館空③ 沖ノ島防空壕
- 館空④ 館山海軍航空隊赤山地下壕
- 洲空⑤ 洲ノ埼海軍航空隊防空壕

掩体壕・格納庫 (4)

- 館空⑤ 館山海軍航空隊宮城掩体壕
- 館空⑥ 館山海軍航空隊香掩体壕
- 2海② 魚雷格納庫
- 横軍④ 隧道格納庫

保管用倉庫 (7)

- 館空⑦ 館山航空隊爆弾庫
- 2海③ 隧道弾薬庫
- 横軍① 館山支庫倉庫
- 横軍② 鷹の島燃料庫
- 横軍③ 赤山燃料庫跡
- 要塞④ 洲崎第2砲台砲側庫・炸薬充実所
- 要塞⑥ 洲崎弾薬支庫

砲台 (8)

- 館空⑧ 大網砲台
- 館空⑨ 城山砲台
- 館空⑩ 二子山砲台
- 館空⑪ 寺山砲台
- 館砲④ 東砲台跡
- 館砲⑤ 西砲台跡
- 要塞① 洲崎第1砲台
- 要塞③ 洲崎第2砲台

その他 (19)

- 館空② 館山海軍航空隊方位測定所
- 館空③ 貯水地 (ダム)
- 館空④ 平砂浦爆撃場
- 館空⑤ 館山海軍航空隊上の原送信所
- 洲空① 洲ノ埼海軍航空隊射撃場
- 洲空② 洲ノ埼海軍航空隊(防火用水跡)
- 洲空③ 洲ノ埼海軍航空隊武道館跡
- 洲空④ 洲ノ埼海軍航空隊御真影奉安所
- 館砲① 館山海軍砲術学校跡
- 館砲② 犬石射撃場跡
- 館砲③ 化学兵器実験施設跡
- 館砲⑥ 配水池
- 横防② 洲崎防備衛所
- 横防③ 布良見張所
- 2海① 館山補給工場
- 要塞② 坊の山観測所
- 要塞⑤ 洲崎観測所
- 要塞⑦ 東京湾要塞第1区地帯票
- 要塞⑧ 東京湾要塞第1区地帯票

図表 2-14 館山地区の戦争遺跡の分布状況



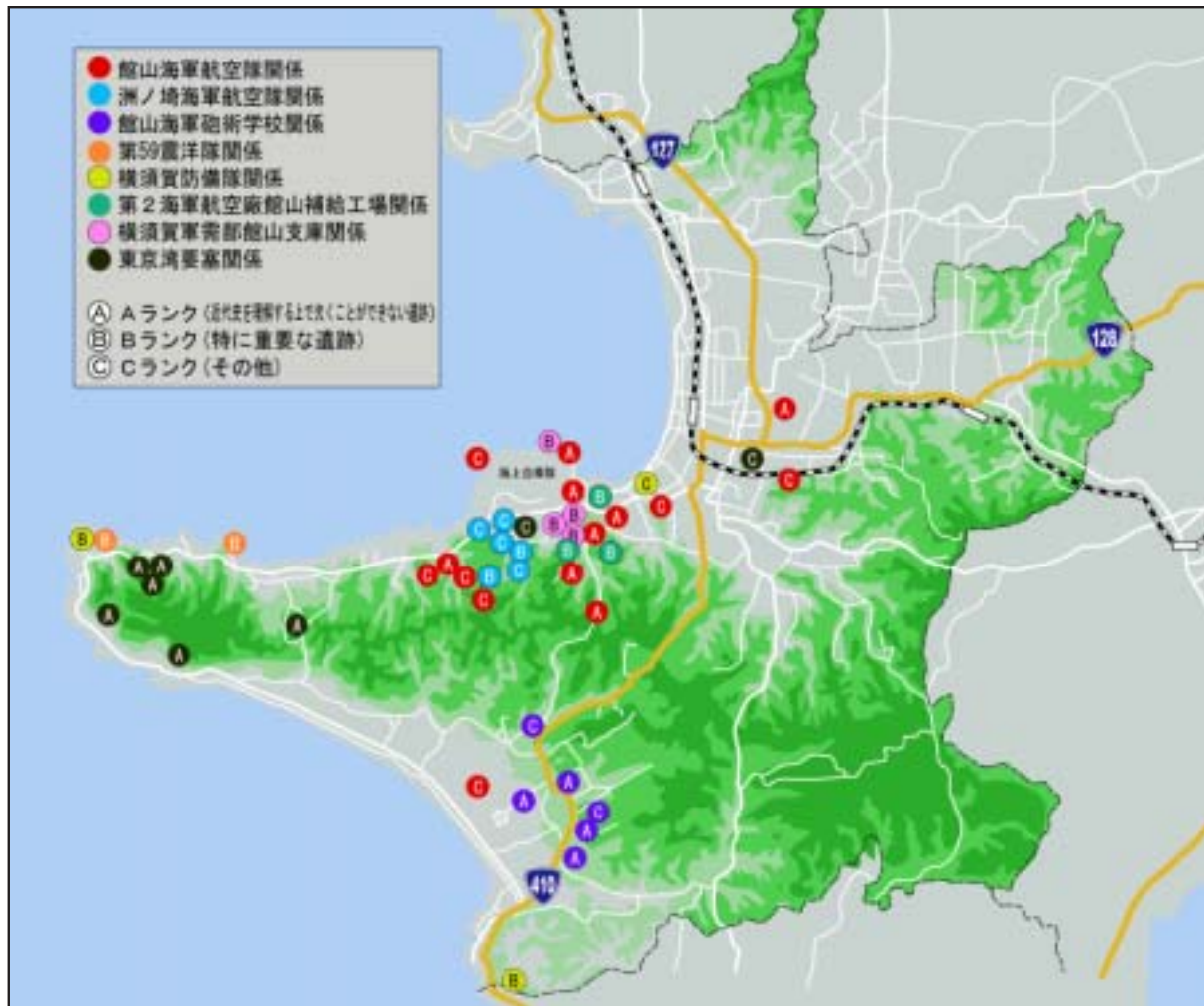
ウ 物件の評価

文化庁が示した近代遺跡の評価基準に基づき、市内戦争遺跡の状況をみると、Aランク（近代史を理解するうえで欠くことができない遺跡）18、Bランク（特に重要な遺跡）13、Cランク（その他）16 となっている。

図表 2-15 評価別にみた市内戦争遺跡の状況

区 分	物件数	評 価			備 考
		A 近代史を理解するうえで欠くことができない遺跡	B 特に重要な遺跡	C その他	
計	47	18	13	16	
館山海軍航空隊関係	15	8	0	7	
洲ノ埼海軍航空隊関係	6	0	2	4	
館山海軍砲術学校関係	6	4	0	2	
第59震洋隊関係	2	0	2	0	
横須賀防備隊関係	3	0	2	1	
第2海軍航空廠館山補給工場関係	3	0	3	0	
横須賀軍需部館山支庫関係	4	0	4	0	
東京湾要塞関係	8	6	0	2	

図表 2-16 評価別にみた市内戦争遺跡の分布状況

**A ランク (近代史を理解するうえで欠くことができない遺跡) (18)**

- 館空① 館山海軍航空隊基地
- 館空② 館山海軍航空隊水上機基地
- 館空④ 館山海軍航空隊赤山地下壕
- 館空⑤ 館山海軍航空隊宮城掩体壕
- 館空⑥ 館山海軍航空隊香掩体壕
- 館空⑫ 館山海軍航空隊方位測定所
- 館空⑬ 貯水地 (ダム)
- 館空⑮ 館山海軍航空隊上の原送信所
- 館砲① 館山海軍砲術学校跡
- 館砲② 犬石射撃場跡
- 館砲③ 化学兵器実験施設跡
- 館砲④ 東砲台跡
- 要塞① 洲崎第1砲台
- 要塞② 坊の山観測所
- 要塞③ 洲崎第2砲台
- 要塞④ 洲崎第2砲台砲側庫・炸薬充実所
- 要塞⑤ 洲崎観測所
- 要塞⑥ 洲崎弾薬支庫

B ランク (特に重要な遺跡) (13)

- 洲空① 洲ノ埼海軍航空隊射撃場
- 洲空⑥ 洲ノ埼海軍航空隊戦闘指揮所
- 震洋① 59震洋隊波左間基地
- 震洋② 59震洋隊洲崎基地
- 横防② 洲崎防備衛所
- 横防③ 布良見張所

- 2海① 館山補給工場
- 2海② 魚雷格納庫
- 2海③ 隧道弾薬庫
- 横軍① 館山支庫倉庫
- 横軍② 鷹の島燃料庫
- 横軍③ 赤山燃料庫跡
- 横軍④ 隧道格納庫

C ランク (その他) (16)

- 館空③ 沖ノ島防空壕
- 館空⑦ 館山航空隊爆弾庫
- 館空⑧ 大網砲台
- 館空⑨ 城山砲台
- 館空⑩ 二子山砲台
- 館空⑪ 寺山砲台
- 館空⑭ 平砂浦爆撃場
- 洲空② 洲ノ埼海軍航空隊 (防火用水跡)
- 洲空③ 洲ノ埼海軍航空隊武道館跡
- 洲空④ 洲ノ埼海軍航空隊御真影奉安所
- 洲空⑤ 洲ノ埼海軍航空隊防空壕
- 館砲⑤ 西砲台跡
- 館砲⑥ 配水池
- 横防① 魚雷艇基地
- 要塞⑦ 東京湾要塞第1区地帯票
- 要塞⑧ 東京湾要塞第1区地帯票

図表 2-17 市内戦争遺跡の状況

分類 1 : 館山海軍航空隊関係 (15)

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	館山海軍航空隊基地	館山市宮城無番地	1930 (昭和 5) 年
2	館山海軍航空隊水上機基地	館山市富士見 3 号地	1930 (昭和 5) 年
3	沖ノ島防空壕	館山市沖ノ島	
4	館山海軍航空隊赤山地下壕	館山市宮城	
5	館山海軍航空隊宮城掩体壕	館山市宮城字新寺脇	
6	館山海軍航空隊香掩体壕	館山市香字岩部	1944 (昭和 19) 年 10 月
7	館山航空隊爆弾庫	館山市香	
8	大網砲台	館山市大網	
9	城山砲台	館山市館山字城山	
10	二子山砲台	館山市大賀	
11	寺山砲台	館山市香	
12	館山海軍航空隊方位測定所	館山市宮城	
13	貯水地 (ダム)	館山市沼	1931 (昭和 6) 年 7 月
14	平砂浦爆撃場	(館山市平砂浦海岸)	
15	館山海軍航空隊上の原送信所	館山市北条	

分類 2 : 洲ノ埼海軍航空隊関係 (6)

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	洲ノ埼海軍航空隊射撃場	館山市笠名字新風早	
2	洲ノ埼海軍航空隊(防火用水跡)	館山市笠名字天神	
3	洲ノ埼海軍航空隊武道館跡	館山市笠名字岡	
4	洲ノ埼海軍航空隊御真影奉安所	館山市笠名無番地 (天神山)	
5	洲ノ埼海軍航空隊防空壕	館山市笠名無番地 (天神山)	
6	洲ノ埼海軍航空隊戦闘指揮所	館山市大賀字前山	1944 (昭和 19) 年 12 月

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価 値
	館山海軍航空隊は、1930（昭和5）年6月1日開隊	A
	極洋船舶工業（株）敷地内	A
		C
総延長約 1,600m	戦闘指揮所？	A
コンクリート造		A
コンクリート造（トンネル式）スパン 18m、奥行 23m		A
		C
		C
	消滅	C
		C
		C
		A
水量 62,000 トン、面積 135,000 m ² 木造建物 5 棟付属	三芳水道企業団宮城浄水場	A
		C
	国土交通省東京航空局館山航空無線標識所・海上自衛隊上野原送信所	A

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価 値
コンクリート造（トンネル式）	洲ノ埼海軍航空隊（射撃兵器整備・航空写真）は、1943（昭和18）年6月1日開隊	B
コンクリート造	名称、要再検討	C
		C
		C
コンクリート造（半地下式）		C
		B

分類 3 : 館山海軍砲術学校関係 (6)

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	館山海軍砲術学校跡 (飛行特技訓練プール、釜場、戦車橋)	飛行特技訓練プール: 館山市藤原字外原 7 7 6 釜場: 館山市佐野字下白萩 2130 戦車橋: 館山市佐野	
2	犬石射撃場跡	館山市犬石	
3	化学兵器実験施設跡	館山市藤原字稲荷前	
4	東砲台跡	館山市犬石字北塚	
5	西砲台跡	館山市洲宮	
6	配水池	館山市犬石字北塚	

分類 4 : 第 59 震洋隊関係 (2)

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	第 59 震洋隊波左間基地	館山市波左間字戸越泛水地: 波左間漁港入口海岸砂地	
2	第 59 震洋隊洲崎基地	館山市洲崎字栄の浦	

分類 5 : 横須賀防備隊関係 (3)

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	魚雷艇基地	館山市館山	
2	洲崎防備衛所	館山市洲崎字早崎	
3	布良見張所	館山市布良他	

分類 6 : 第 2 海軍航空廠館山補給工場関係 (3)

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	館山補給工場	館山市沼字西原	
2	魚雷格納庫	館山市沼字磯崎	
3	隧道弾薬庫	館山市沼字手呂尾	

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価
飛行特技訓練プール：コンクリート造 釜場：レンガ造戦車橋：コンクリート造	館山海軍砲術学校は、1941（昭和16）年6月1日開校	A
的壕：コンクリート造		A
コンクリート造		A
コンクリート造（半地下式）	高角砲3基	A
コンクリート造（半地下式）	消滅？高角砲2基以上	C
		C

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価
丘陵崖面横穴式	格納庫7基震洋の兵器としての正式採用は、1944（昭和19）年8月28日。	B
海食崖面横穴式	格納庫2基	B

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価
	東京水産大学館山実習所	C
		B
	海上保安庁第3管区海上保安部白浜通信局	B

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価
鉄骨造一部2階建スレート葺建床面積1658.77㎡延床面積2782.71㎡内部に機器移動用のクレーンが現存屋根組み材に被弾跡3箇所外壁腰部分1.2mまでレンガ積み（イギリス式）	館山臨港倉庫※第2海軍航空廠は、昭和16年10月1日海軍航空廠令により、木更津に設置。航空兵器およびその材料の造修や購買、保管や供給を担った	B
丘陵崖面横穴式コンクリート造		B
丘陵崖面横穴式コンクリート造	国土地理院地殻変動観測所	B

分類 7：横須賀軍需部館山支庫関係（4）

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	館山支庫倉庫	館山市沼	
2	鷹の島燃料庫	館山市富士見無番地(海上自衛隊館山航空基地内)	
3	赤山燃料庫跡	館山市宮城	
4	隧道格納庫	館山市沼字前山	

分類 8：東京湾要塞関係（8）

番号	名 称	所 在 地	竣 工 年
1	洲崎第 1 砲台	館山市加賀名字北作堰谷	1928（昭和 3）年 9 月起工 1932（昭和 7）年 10 月竣工 1934（昭和 9）年 3 月偽装工事完成
2	坊の山観測所	館山市伊戸	
3	洲崎第 2 砲台	館山市坂田	1924（大正 13）年 10 月起工 1927（昭和 2）年 3 月竣工
4	洲崎第 2 砲台砲側庫・炸薬充実所	砲側庫：館山市坂田字八十畑、坂田 炸薬充実所：館山市坂田	
5	洲崎観測所	第 1 観測所：館山市洲崎 1697 他第 2 観測所：館山市西川名字前山	第 1 観測所：1930（昭和 5）年 12 月第 2 観測所：1929（昭和 4）年 12 月
6	洲崎弾薬支庫	館山市坂田字八十畑	1927（昭和 2）年 3 月
7	東京湾要塞第 1 区地帯票	館山市新宿	1941（昭和 16）年
8	東京湾要塞第 1 区地帯票	館山市笠名無番地（天神山）	1941（昭和 16）年

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価
木造	丸高石油（株）倉庫	B
鉄製タンク	6基。1基150k11995年まで使用	B
土中式(大きな縦穴を掘り、周りと底をコンクリートで固める)	2基。未完成	B
丘陵崖面横穴式	複数あり	B

構 造 特 徴 等	備 考	文 化 財 価
標高 40m付近に立地砲塔砲台（軍艦生駒の前部主砲 45口径 30cmカノン 2門入砲塔 1基）鉄筋コンクリート 3.5mの掩護厚砲側庫・機械室の天井経始：平版両端ハンチのラーメン構造砲塔地下部の深さ 13.8m 主動力：120馬力ディーゼル機関 1基、100馬力ディーゼル機関 1基、10トン水压蓄力機 1基（砲塔の旋回・火砲の俯仰・発射用）	終戦後、米軍が砲塔部破壊	A
洲崎第 1 砲台および洲崎観測所との間に電線を埋設	未確認	A
7年式 30cm榴弾砲 4基（砲座は、南北に 8mを間して、1直線に配置）		A
砲側庫：隧道式（レンガ貼）、横穴式（コンクリート貼）2炸薬充実所：鉄筋コンクリート造（蒲鉾型）		A
半地下式コンクリート造		A
丘陵崖面横穴式内庫・外庫 2重式内庫：鉄筋コンクリート造、外背および床アスファルト防水防湿		A
コンクリート標柱		C
コンクリート標柱	笠名地内の民家で土留めに使用されていたものを、2002年移設	C

（注）「文化財評価」欄の記載については、A：館山海軍航空隊関係遺跡群、館山海軍砲術学校遺跡群、東京湾要塞関係遺跡群のうち、歴史的価値の高いと思われるもの、B：その他の遺跡群でAに準ずるもの、C：A級、B級の遺跡群に属する遺跡の中で、残存状況の悪いもの、あるいは消滅等により確認できないもの。本評価は確定したものではない。

(3) 主要戦争遺跡（館山海軍航空隊赤山地下壕）の現状

ア 調査の概要

市内戦争遺跡のうち、大規模な遺構を有する館山海軍航空隊赤山地下壕については、公開に対する社会的ニーズが高いと考えられる。

しかし、壕内の全容は、現存する史料が不足していることや、多数の廃棄物が放置されているため、必ずしも明らかになっていない。また、一部崩落が確認される現状があり、安全度についても未確認な箇所が多くなっている。このため、今回、測量並びに安全性の概略を把握するため、①測量調査、②地質踏査を実施した。

図表 2-18 赤山地下壕の位置



イ 調査方法

調査に当たっては、測量線部分にそった目視を中心に、一部叩き、地質資料などによる定性的、専門的見地からの概略判断を行った。なお、本格的に調査を実施する場合、発電機などにより一定の照度を確保した照明の使用が必要となるが、今回の調査では、懐中電灯を使用した。このため、目視調査を行った天井部分については、必ずしも厳密な調査結果となっていない。また、壕内に残存している廃棄物が集積し、十分に確認ができなかった箇所もある。また、コンクリート部分は叩いてみて危険が予想される場合、面をはつり、中のサンプルを抽出しての調査が必要である。

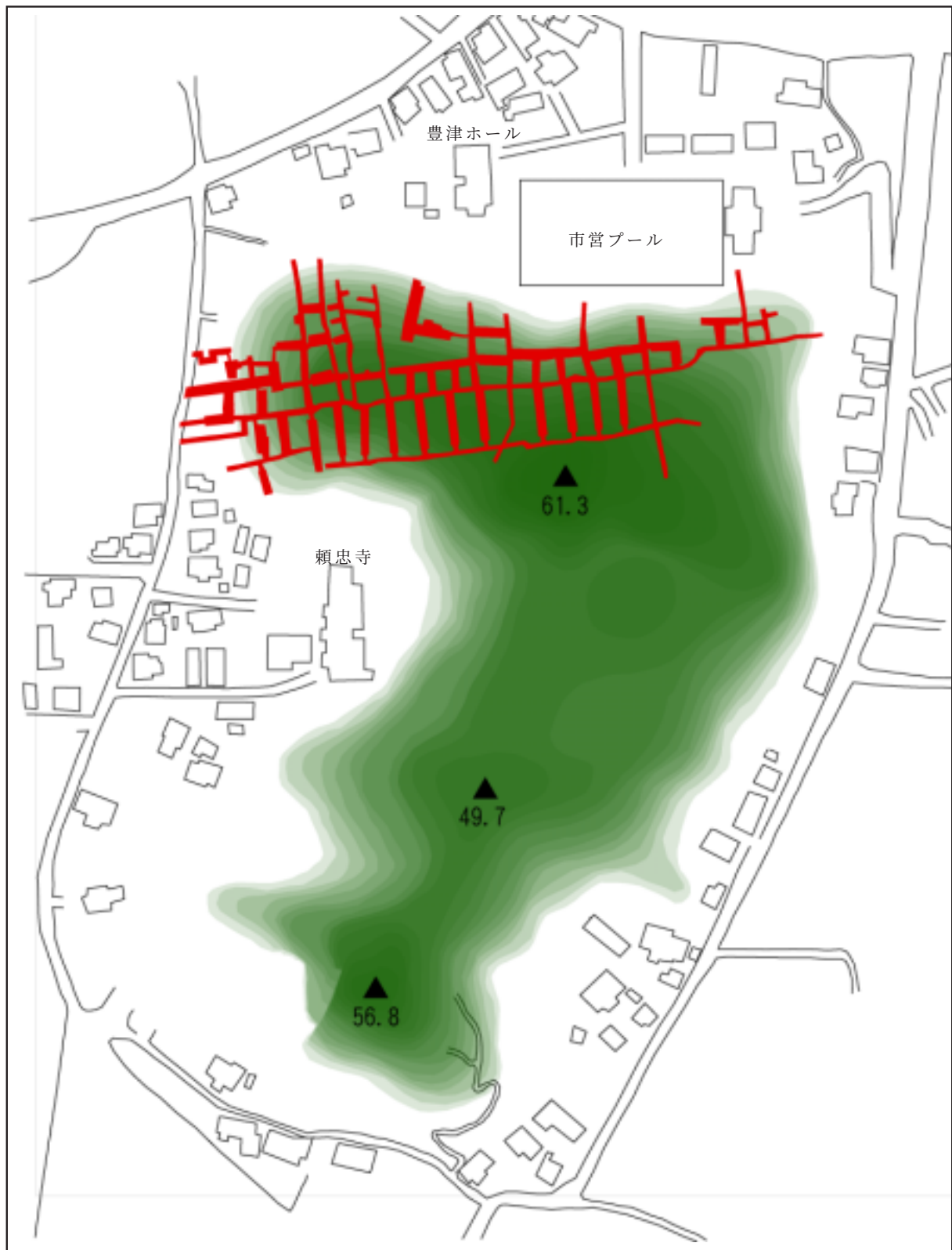
ウ 調査結果の概要

①測量調査

調査地は、館山市街地西部、海上自衛隊館山航空基地の南東約 200 m に位置している。南は標高 100 数十メートルの尾根を持つ丘陵地が広がっており、調査地は館山湾に面した丘陵地末端の独立した小丘となっている。丘陵の標高は約 60 m、地下壕は約 40 m の土被りがある。

壕は、小丘（赤山）の北側に位置し、最大で東西約 250 m、南北約 80 m の規模を有している。壕の構造は、主要な 3 つの坑道が東西に走り、それらを結ぶ坑道が南北に 30 本以上存在している。

図表2-19 赤山地下壕の概要



②地質踏査調査

調査地付近の丘陵地は、新生代新第三紀中新世（中期：約1,000万年前）の安房層群（または三浦層群：天津層相当層）からなる。凝灰質砂岩、泥岩及び砂岩泥岩の互層が主体であり、調査地では砂岩、凝灰質砂岩が主に分布している。

地下壕内及びその周辺に分布する地層については、砂岩、凝灰岩とも亀裂の少ない軟岩であり、ハンマーの軽打で容易に割れる。また、全体に粒子が粗く固結度が低いため、岩片は指圧で容易に崩れる程度の硬さとなっている。

③危険箇所

目視による危険箇所については、落盤などの危険のあると思われる地点は、規模や危険度を考慮しなければ10か所以上に上る。これらは次のパターンに区分できる。

- ①凝灰岩薄層や層状岩砂などの層理面の分離によるもの
- ②節理等の不連続面によるもの
- ③応力解放による剥離と考えられるもの
- ④土被り荷重による破壊と考えられるもの

上記の区分及び定性的な危険度をまとめると、「危険度大」の地点が3か所ある。

図表 2-20 赤山地下壕の地点別にみた危険箇所・度合いの状況

地点	タイプ	危険度	特記事項
A	①	大	層理面による分離と風化による岩盤劣化
B	③	小	小規模の剥離
C	①	中	分離面は大きく開口している(1cm以上)
D	①	中	凝灰岩にそって1～2mm開口
E	①	中	凝灰岩にそって1～2mm開口
F	①	中	凝灰岩にそって1～2mm開口
G	①	中	凝灰岩にそって1～2mm開口
H	①	大	場所により大きな落盤の可能性がある
I	④	?	判断不能
J	②	小	側壁の小崩落
K	③	小	剥離部分は側壁であり、薄い(5cm)
L	②	大	不安定な岩塊が抜け残っており、危険

(注) 危険度大、中、小は定性的な判断。大とは「明日岩盤が落ちてでも不思議はないレベル」、小は「岩石表面が剥離などでパラパラと落ちるレベル」、中はこの中間程度。

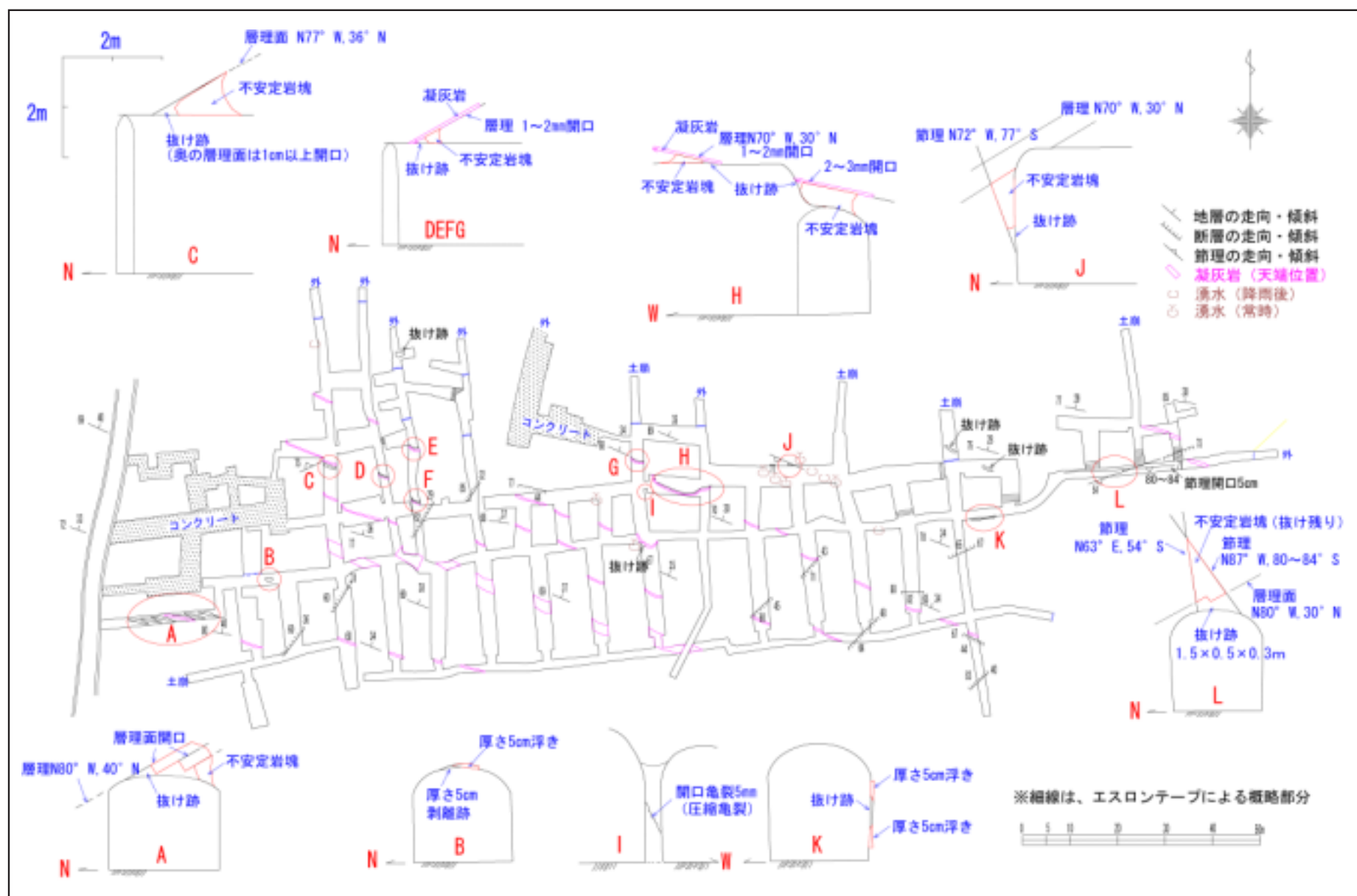
エ 活用について

公開などの今後の活用に当たっては、本格的な安全調査の実施が必要となるが、今回の調査結果から評価した場合、危険度大と評価される3地点（A、H、L）や危険度中の地点を通過しないことを前提に、ヘルメット着用を義務づける、「一定の管理」（①入り口で人が出入りをチェックして保安に努める、②地震や大雨の後などにチェックをして、異変がなければ利用させるなどの意）の下に入壕を認めるなど、必要な安全対策を実施すれば、公開などの一定の活用は可能な状況にある。また、危険か所は補強するなどの安全処置をすれば安全度はより一層向上する。

オ 後続調査について

今年度調査は、「本調査」前の「概略調査」の位置づけなので、安全性についての判断と対応策を検討することが望まれる。

図表 2-21 赤山地下壕の平面図



(4) 戦争経験者等の関係者の現状

ア 概要

太平洋戦争終結から57年が経過しており、戦争経験者・証言者などの関係者が減少してきている。厚生労働省の簡易生命表から年齢別生存率をみると、終戦時に20歳の人（現在、76歳）の生存率は男性64.1%、女性82.2%、30歳の人（現在、87歳）の生存率は男性26.8%、女性51.6%となっている。

図表2-22 年齢別・性別にみた生存率

誕生年	平成14年 時の年齢	終戦時 の年齢	生存率 (%)		備考欄
			男性	女性	
昭和20年	57歳	0歳	91.778	95.732	昭和20年生まれ
19年	58	1	91.102	95.432	
18年	59	2	90.379	95.113	
17年	60	3	89.606	94.774	
16年	61	4	88.774	94.409	
15年	62	5	87.873	94.014	
14年	63	6	86.891	93.580	国民学校該当年齢
13年	64	7	85.817	93.102	
12年	65	8	84.643	92.576	
11年	66	9	83.368	92.001	
10年	67	10	81.989	91.373	
9年	68	11	80.499	90.689	
8年	69	12	78.892	89.942	
7年	70	13	77.165	89.126	中学校該当年齢
6年	71	14	75.320	88.236	
5年	72	15	73.350	87.259	
4年	73	16	71.249	86.186	
3年	74	17	69.007	85.004	
2年	75	18	66.613	83.691	
大正15年 昭和元年	76	19	64.064	82.225	成人年齢
13年	77	20	61.356	80.581	
12年	78	21	58.487	78.748	
11年	79	22	55.446	76.709	
10年	80	23	52.223	74.446	
9年	81	24	48.830	71.939	
8年	82	25	45.287	69.181	
7年	83	26	41.635	66.170	
6年	84	27	37.922	62.905	
5年	85	28	34.194	59.390	
4年	86	29	30.506	55.636	
3年	87	30	26.863	51.649	30歳
2年	88	31	23.334	47.468	
大正元年 明治45年	89	32	19.971	43.138	
44年	90	33	16.822	38.693	
43年	91	34	13.927	34.198	
42年	92	35	11.318	29.796	
41年	93	36	9.015	25.568	
40年	94	37	7.026	21.588	
39年	95	38	5.348	17.918	
38年	96	39	3.970	14.604	
37年	97	40	2.867	11.674	40歳
36年	98	41	2.010	9.143	
35年	99	42	1.365	7.006	
34年	100-	43-	0.896	5.246	

資料：厚生労働省「平成12年簡易生命表」を基に作成

イ 戦争遺跡関係者の状況

館山市内に立地した旧日本軍関係施設・機関に従軍・従事の経験を有する関係者に対して、当該施設における体験、証言などを収集し、市内に戦争遺跡の構築・使用目的、実態などを把握した。また、関係者が保有する関係品の状況を把握し、平和学習拠点における展示資料収集の可能性についても情報を収集した。

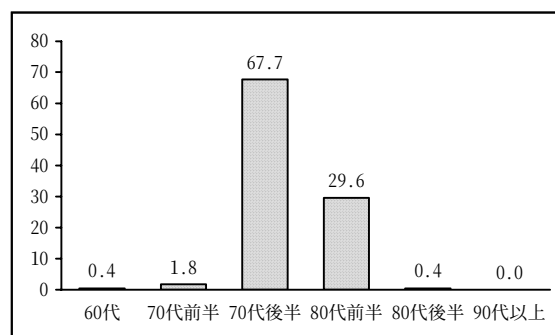
調査対象者は、館山海軍航空隊、洲ノ埼海軍航空隊、館山海軍砲術学校などの関係者、関係組織（同期会、同窓会）が保有する名簿の登載者のうち、昭和生まれの関係者1,000人を実無作為に抽出（関係者の配分は、館空300人、洲空300人、館砲300人、その他100人程度）し、調査票を郵送にて配布・回収した。回答は225人（回収率22.5%）となっている。

①回答者の年齢・現住所

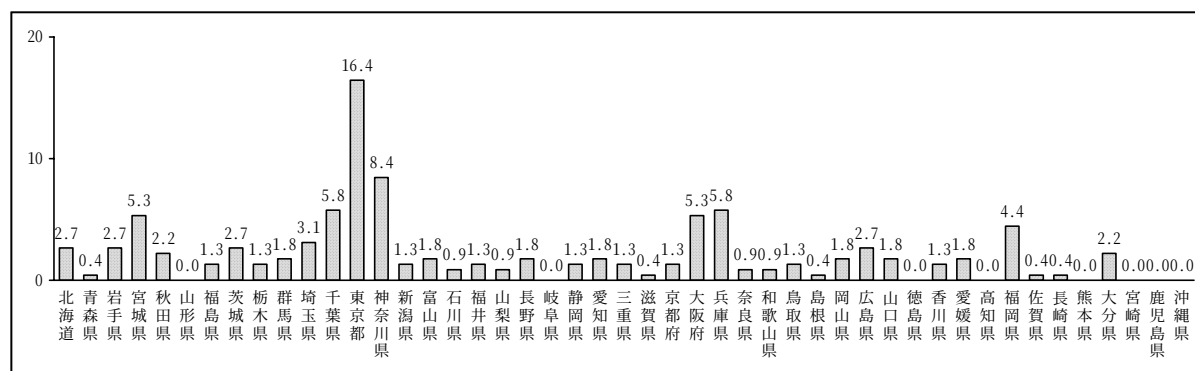
回答者のうち、最高齢は85歳、最年少は65歳、平均年齢は78.4歳となっており、高年齢化が進んでいる。年齢階級別にみると、70代後半が回答者の67.7%を占め最も多く、次いで80代前半の29.6%となっている。

回答者の現在の居住地については、各軍事機関には全国からの召集者があったため、全国39都道府県に分布しており、最も多いのは東京都の16.4%となっている。主として、千葉県・東京都・神奈川県などの首都圏のほか、宮城県、大阪府、兵庫県、福岡県といった大都市圏を抱える地域での分布が多くなっている。

図表 2-23 回答者の年齢



図表 2-24 回答者の現在の居住地

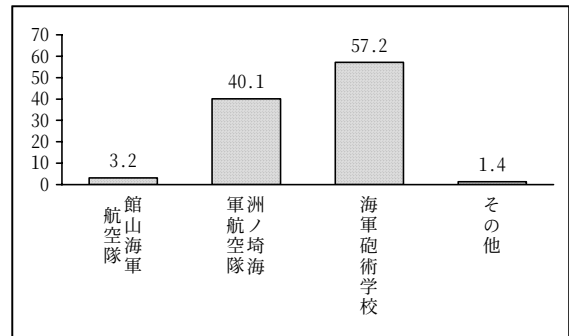


②回答者の戦時経験

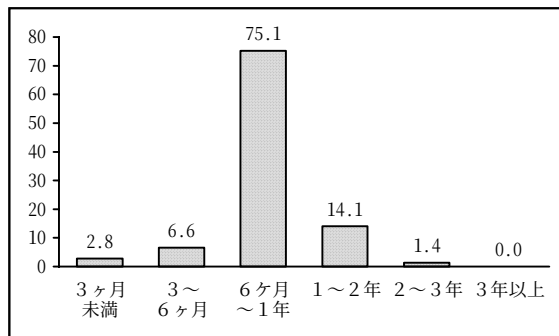
回答者の館山市での勤務機関（従軍・従事・修学機関）については、館山海軍砲術学校が57.2%、洲ノ埼海軍航空隊40.1%、館山海軍航空隊3.2%となっている。また、これらの機関における館山市での勤務期間については、6ヶ月～1年未満が75.1%を占め、最も高くなっている。

終戦時に勤務又は居住していた地域については、館山市で終戦を迎えた者は5.1%に留まり、53.9%が館山市以外の国内、41.0%が国外となっている。

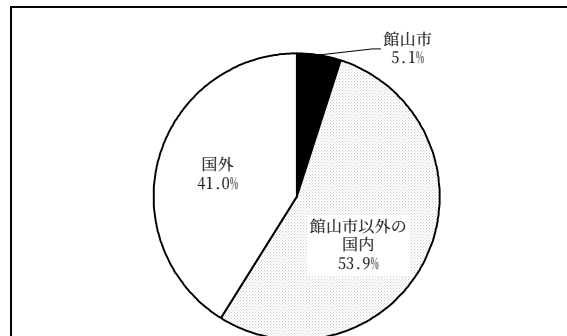
図表2-25 館山市での勤務機関



図表2-26 館山市での勤務期間



図表2-27 終戦時の居住地・勤務地



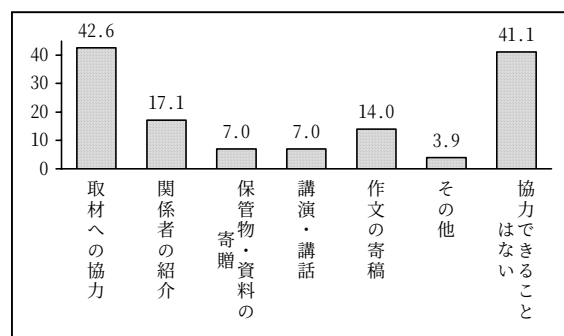
③今後の館山市への協力

館山市が戦争遺跡の保存・活用を進めるに当たって、回答者の協力については、「協力できる」58.9%、「協力できることはない」41.1%となっており、半数以上の関係者が何らかの協力が可能な状況となっている。

協力できる事項については、取材への協力が42.6%、関係者の紹介17.1%、作文の寄稿14.0%となっている。

また、保管物・資料の寄贈については、7.0%となっているが、その内容については、写真、書類（手紙・日記）、軍装品、国旗などとなっている。

図表2-28 今後の館山市への協力



図表 2-29 戦争遺跡関係者の所有品の一例

関係者が所有する物品等又は館山市関係品
手箱、食器、やかん
洲ノ空六期会会報「洲ノ埼」№1（昭和 59 年）～№18（平成 13 年）洲ノ空六期会編「同期思い出のアルバム（昭和 63 年 9 月刊）
洲ノ空六期会の会報「洲ノ埼」の創刊号に同期楠岡茂君提供の洲ノ埼海軍航空隊配置図があります。
1. 当時入隊に作った日の丸の寄せ書き団旗 2 枚 1. 当時作製した（母が作った）千人針（千人の女のの人が針で赤糸で結んで作るトラ（動物の形をした編み物）です。） 1. 当時外出して写真を撮った；館山市での友人、友達が上整曹長の帽子をかぶった写真等が沢山保管してあります。 1. 当時軍服、手帖
入隊の 2 ヶ月後、初外出の時、写真館で撮った写真を現在も保管しています。
指導しておりました予科練生が教育課程終了時に館山海岸で写した記念写真が残っております。
陸戦操式草案 1 冊。 註 これは砲術学校の術科教程（陸戦班）で使用したものです。
館山市内のどこかで写した自分の写真
館山での現存する写真。1.野島崎灯台行軍時、安藤学生隊長、各教官と昼食時の 1 枚。2.安房神社内で陸戦訓練時に高田教官に撮ってもらった 1 枚。3.カッター訓練時、水口講習所前で撮った 5 分隊員一同
香港に赴任する際、印鑑を持参するように言われ、街で印鑑を作って貰い購入しました。現在使用しています。（唯一のもの）
写真、名刺
第 1 種軍装（冬用）の略帽 1 が残っている。希望あれば寄贈する。
S18 年、市内成瀬写真館で学生当時の記念撮影をした。
1.写真（予備学生、第 102 S 特陸大虎部隊） 2.オールネービー（機関紙） 3.「特攻 S 特」海軍特別陸戦隊山岡部隊々々史（昭和 53 年 2 月 11 日発行、発行者／山岡部隊々々史刊行所山岡大二、〒155-0033 東京都世田谷区代田 2-9-5 tel 03-3413-7080、印刷製本／竹田印刷(株)）
館山海軍砲術学校第三期兵科予備学生「戦没者慰霊碑建立記録」のビデオテープ 「予備学生の手記」出版書が我が家に在庫されているので利用出来るようならお送りします。
学生隊所属当時の当時の入校式、行事、木村屋旅館での両親との記念写真等、若干のものがある。その他、眞継不二雄編の海軍予備学生の写真集、「消えた砲台」（作者は今、判らず）
昭和 20 年 6 月頃、予備生徒隊の区隊長 4 人と隊付教官で神社のようなところで第 3 種軍装で撮った写真がある。
1 軍帽 2 短剣 3 国旗（入校の時の関係者の寄せ書入り） 4 千人針（故郷の女子青年団から贈られた）
館砲校時代の写真が若干あるのみ。
佐賀市北川副町木原 212-9 深江汨央氏（化兵同期）所持。私の海軍予備学生記「館山砲術学校」の入校から卒業までの詳細な記録が書かれていますので参考までに問い合わせ下さい。
「館砲日記」、「軍刀」、「写真」
短剣の帯、ゲートル
昭和 19 年 1 月、訓練のため館山海軍砲術学校を出る勇姿（写真添付）
写真、千人針、双眼鏡、飯盒、比島で私の受け持っていた隊全員の寄せ書の布（全員戦死）。私はその前に戦傷のため内地送還された。

（注）□は、判読できなかった文字

ウ 勤務に関する記憶

①勤務の内容

(a) 館山海軍航空隊

年齢	現住所	当時の役職	勤務の内容
76	神奈川県	901 海軍航空隊 三等兵曹 通信兵	通信兵として、901 海軍航空隊、各派遣隊の基地及び護衛機との連絡通信、又、気象電報の受信
73	埼玉県	903 海軍航空隊 能代基地派遣隊 海軍水兵長 通信員	最初は、海軍東京通信隊（千葉県船橋送信所）の海軍部内全般放送、気象放送等の受信でした。この後、横須賀防備船隊の船との交信、各派遣隊との交信でした。

(b) 洲ノ埼海軍航空隊

年齢	現住所	当時の役職	勤務の内容
77	岩手県	洲ノ埼海軍航空隊海軍上等整備兵曹	昭和20年6月頃当時の戦況は硫黄島玉砕、房総半島南方の航空母艦からグラマン、ロッキードが毎日断続的に飛来し、爆弾、機銃掃射を繰り返し、教育部隊である洲ノ埼海軍航空隊を分散疎開することになり、豊房村に分散、宿舎、事務所等が急遽立てられ、引越し班長としてその任にあった。
76	岩手県	土浦海軍航空隊、第二分隊、海軍一等整備兵曹、光学教官	洲ノ埼空は兵器整備を専門とする要員を育成する部隊だと思っていたのですが、射爆、光学、雷爆、無線、写真などに分かれており、専ら夫々の専門分野で養成されました。19年1月に入隊し、10月に転勤配属されるまで10ヶ月居りました。洲ノ空は練習部隊だと聞かされており、訓練のサイクルは10ヶ月だったと思います。ここから配属された要員の中には国外もありましたし、船に乗船するもの、国内の部隊のものと様々でした。
76	神奈川県	横須賀海軍航空隊第97分隊、一等整備兵曹	洲ノ埼海軍航空隊で第六期整備科（航空兵器）予備練習生として、昭和19年1月より同年9月まで航空兵器のうち射爆兵器の教習を受けていました。航空兵器の予備練習生としては最初であり最後となりました。航空兵器は、射爆、雷爆、光学、無線、電探、写真の専科がありました。
76	京都府	洲ノ空射爆普通科分隊教員、海軍一等整備兵曹	洲ノ空は練習航空隊で飛行機に搭載する全兵器（機銃、爆弾、無線器、射撃、爆撃照準器等々）を最も有効に使うべく、勉強や実地教育をする事が目的であったが、本土決戦が叫ばれるようになってからは、本来の目的からは遠くはなれ、本土決戦に向けての作業員として勤務する日々が続いた。
77	東京都	第203航空隊、戦闘303飛行隊、上等整備兵曹	昭和19年1月15日洲ノ埼海軍航空隊入隊、航空兵器整備術（射撃、爆撃兵器）の教育を受け昭和19年9月15日卒業、一等整備兵曹に任官、館山航空隊内の第252航空隊に赴任。昭和19年10月比島クラーク基地、台湾台中基地に勤務。昭和20年1月鹿児島基地へ、昭和20年6月宇佐基地に、何れも零戦の兵器整備（機銃、爆弾）に携わる。

(c) 館山海軍砲術学校

年齢	現住所	当時の役職	勤務の内容
81	北海道	21 警備隊（アンボン島）砲隊長 海軍大尉	神戸村にあった海軍砲術学校の予備学生として海軍予備士官の教育をもっぱら受けました。そのために実戦教育は高角砲や陸戦教育を受けました。今は学校の跡は水田になっております。
73	千葉県	百里原航空隊 上等兵 航空兵	主に、ゼロ戦の整備と横須賀よりA船で運んできた飛行機部品や弾薬その他を3隻で週1回館空へ兵隊その他軍需部に建設資材、オイル、食料の運搬作業。
79	東京都	横須賀第16 特別陸戦隊（戦車）一大隊二中隊長 海軍中尉	予備学生として陸戦の訓練を受け、昭和19年5月31日海軍少尉任官。引き続き、戦車講習を受講。昭和19年11月館砲陸戦科員として勤務、陸軍の歩兵学校で講習を受ける（挺身奇襲、橋頭堡突破の新しい歩兵の戦術法等）。館砲5分隊士（戦車）勤務。館砲閉鎖で横須賀方面に展開、横須賀16 特陸編成され、一大隊（陸用戦車）二中隊長として約4ヶ月勤務。
79	東京都	海軍第12 特別根地隊 陸警隊分隊長 海軍中尉	昭和18年9月早大を繰上げ卒業後、予備学生として館山海軍砲術学校へ（同年10月）。不足した海軍下級士官の即成教育。主に神戸村の本校、その付近、平砂浦、白浜が演習地。涙と汗を南総の恵れた地にて流し来した。現在は安房神社に記念碑を建て偲んでおります。
82	神奈川県	呉鎮 101 特別陸戦隊 第3 小隊長 海軍大尉	呉鎮第101 特別陸戦隊は、今でいう海軍唯一の特殊部隊であり、訓練基地として館山海軍砲術学校奥兵舎に起居し、南房総の山野、海を訓練場として隊員を教育・訓練していた。総員長髪（日本の軍隊では唯一）の部隊で、当時館山地区で「山岡部隊」と呼ばれていた。所属して特殊舟艇4隻は那古船形湾を繋船基地として使用していた。この隊は昭和20年6月、青森県三沢の航空基地に移動、マリアナのB29 基地強襲作戦に従事し、作戦直前に終戦となった。
84	神奈川県	館山海軍航空隊 城山砲台砲台長 海軍中尉	砲術学校では対空の勉強を、城山砲台では射撃の指揮をしておりました。
81	三重県	横須賀海軍軍需部総務課 海軍中尉 高等官七等七位	海軍予備学生隊としての任務（少尉候補生待遇）で軍事教東砲台で実弾射撃（高角砲）や又海岸の松原で対戦車法や陸戦の訓練等々をしていました。軍事訓練以外は、学科（砲術一般の理論その他）。海軍体操と駆け足は海軍の日課でした。
78	大阪府	海軍第6 警備隊 ロンボ派遣隊長 海軍中尉	昭和18年9月三重海軍航空隊より館山海軍砲術学校に入校。同年10月1日より砲術学校において基礎教程、昭和19年3月1日より陸戦の術科教程を予備学生として従事。昭和19年5月31日附即日召集、海軍予備少尉に任官。同年6月末、戦地赴任まで館山および横須賀砲術学校にて教育、訓練に従事する。

②勤務の思い出

(a) 館山海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	勤務の思い出
75	秋田県	252 空戦闘 316、305 飛行隊	昭和 20.1 硫黄島基地からの遺骨、負傷者がぞくぞくと館山基地に還行され、感無量であった。
73	埼玉県	903 海軍航空隊 館山本部 21 分隊通信科	S20 年 3 月末、館山基地を第 252 空の戦闘機 3 機が特攻出撃の為、九州鹿屋基地に向け出撃、機が三浦半島に消えるまで帽子を振り見送ったのが、50 年以上経過した今でも昨日のように思い出します。今の平和は、その人達の犠牲によりあるのだと思います。
76	神奈川県	901 海軍航空隊 館山派遣隊	S19 年頃と思いますが、隊内の兵舎で気象電報を受信していた最中に米軍の艦載機（グラマン戦闘機）の飛来に合い、兵舎を爆撃され防空壕に逃げたことがあった。その後、再三に飛行場に疑似の戦闘機をねらい、機銃掃射をしていた、その中の 1 機が撃墜された。

(b) 洲ノ埼海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	勤務の思い出
78	宮城県	兵器整備科高等科練習生として就学、射爆（甲）	洲ノ埼海軍航空隊での練習生時代はまさに地獄を思わせる。猛訓練に明け暮れ、童顔の面影がしのばれる往時の写真を見ると、われながら「月月火水木金金」と揶揄されながら寸暇を惜しんだ勤務によく耐えたと思う。朝 5 時起床、吊床訓練、洲ノ空兵舎から北条館山駅まで駆け足、炊事当番、午前・午後の学科に実技。帝国海軍独特の罰直（精神注入棒で殴られ、前後列のビンタなど）。午後 8 時に巡検ラップで消灯・就寝となり、故郷を偲び枕を濡らした悪夢の青春が浮かびます。
76	群馬県	海軍整備科予備練習生、写真科専科	昭和 19 年の 1 月に洲ノ埼海軍航空隊に入隊いたしました。工業学校の卒業生を全国から募集、約 500 名が入隊しました。昭和 18 年の 12 月に繰上げ卒業をした若者が応募したものです。館山について 1 月というのに菜の花が咲いている気候温暖な所に来られてよかったなと思ったのも束の間で、それから毎日猛烈な訓練が始まりました。猛烈な訓練の様子は今の若い人にはあまり言いたくはありません。当時の思い出としては隊の裏山を毎日の様に防空壕を掘った事です。
76	京都府	射爆 25 分隊、教員	(1) 豊房村へ兵舎を移転する作業をした。 昭和 20 年 2 月頃から、米軍の艦載機が飛来し洲ノ空の兵舎も度々の攻撃を受け、多大の損害を被った。その破壊された木材や、兵舎を解体した木材を使って兵舎の疎開が行われその作業を担当した。運搬は毎日大八車を 5～6 台連ねて人力で運び、大工は兵隊の中で経験の有る者が当たった。防空壕も横穴式で兵舎の近くの山を貫通して掘ったもので長さは約 50 メートル位は有ったと思う。 (2) 防空壕 洲ノ空の防空壕は、昭和 19 年 6 月頃各分隊に場所と規模（広さ）を割り当てられ、空き時間を使って各班交代で掘り、昭和 20 年 2 月頃には、殆どの防空壕が完成し、全兵員が安全な横穴式の防空壕に待避することが出来た。

(c) 館山海軍砲術学校

年齢	現住所	所属部隊・部署	勤務の思い出
79	埼玉県	第3期兵科予備学生 隊対空班 第5分隊 第53区隊	学校での毎日の生活について。学校に住んで毎日教育を受けるわけですが、一般社会より時の国の要請により軍の学校に入学したので、毎日の規律ある生活には大変苦勞があり戸惑いました。例えば、冬期は朝6時起床（夏は5時）、夜9時迄午前中は学科、午後は野外訓練の連続で、学科で習った事はすぐに試験があるので大変でした。また、日中の仕事の時間は大変厳しく、5分前の励行は何をするのにも基本とするよう教えられましたので、終戦後一般社会に帰ってからもこの教えを今でも守っております。ですから、時間を守ることは今でも身につけています。5分前の励行で時間を守る事を厳しく教えられましたので一日の行動が、寝る時以外はすべて「駄足」で、階段を昇る時は2段づつと決められていました。で、ありますから、物を食する時も時間がないので、例えば便所でひそかに食べたという記憶があります。
81	千葉県	第3期予備学生隊対 空班専修	学生隊に勤務中、阿部校長は機会あるごとに「本校在任中は楽しい所でなければならない。体罰は絶対禁止する。若し体罰を加える者がいたら、軍法会議にかけて嚴重処断する」と何回も何回も重ねて厳命していた。しかしながら、その場所を離れると、若い上級士官が「あれは建前で、本音は別だ。戦場で殺すか殺されるかの分かれ道を的確に判断するには、訓練時に体罰は絶対必要だ。判らなければ教えてやる。」と上司から言われ、困ったことが何回もあった。4期学生の教育時に軍規・風則を取り締まる任務だったので、特に困った。
78	東京都	海軍予備学生隊 陸戦 科学兵器隊	「冬でも菜の花が咲く」という、暖かい館山でも手にも足にもしもやけが出来た。軍隊の名のもとに暖房設備等は一切ない。動物扱いにも等しいような事しか出来ない様な国がアメリカを相手に勝てるはずがない。どんなに精神力があっても精神力とは、体力、栄養等の形を変えたエネルギーなのでこれらを軽んじる考え方には絶対反対です。予備学生として、訓練を受けていた時代の食事は、カロリー的には充分だったと思われるが、いつも腹が減っている状態でこれが一番つらいことだった。
80	山梨県	予備学生 12.5 糶 高角砲 特別班	館山の砲術学校は鬼の館砲と言われ、第三期予備学生（士官候補）同期の桜1,500名は昭和18年10月入校（内特進110名）は昭和19年4月少尉に任官、直ちにそれぞれ戦地へ。学校の訓練はすべて規則づくめ、行動はすべて競争、寒中火の気なし、ネルの肌着に作業服、階段の昇りは2段飛び、校内行動は駄足、5分前集合等。私の性格に合致し、苦しい中にも充実した、張りのある厳しい訓練期間でありました。

③勤務時の上官・同僚等の思い出

(a) 館山海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	勤務時の上官・同僚の思い出
73	埼玉県	903 海軍航空隊 館山本部 21 分隊通信科	903 海軍航空隊司令官は、海軍少尉 野本為輝という人でした。戦後、全国遺族会の役員として何度か新聞で拝見した。
76	神奈川県	901 海軍航空隊 館山派遣隊	同じ隊の戦友たちは良い人ばかりでした。隊員の一人が悪ければ全体で責任を負い、良いことが有れば、全体で喜びを分かち合うと、仲良く生活していた。階級の下のを可愛がり、上官を敬う、又、年齢が上であれば階級が下でも尊敬していた。現代の若者も見習うべきところがあると思います。

(b) 洲ノ埼海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	勤務時の上官・同僚の思い出
78	秋田県	第六期整備科予備練習生光学兵器整備	海軍に入隊し、まだ日の浅い、練習生時代のことであった。つい先刻までの地獄のようなきつい集団制裁も解散となり、恐怖と苦痛に歯を食いしばりながら、ようやく吊り床にもぐり眠りにつこうとしたその時、「みな眠ったか…」、いつになく落ち着いた柔らかな声が甲板の通路からよびかけてきた。「…返事をしなくともよろしい。眠りたい者は眠れ。エエカ…。冬来たりなば春遠からじという言葉のあることを皆知ってるナア。貴様等もう数ヵ月で卒業するのだ。これまでの長い練習生生活は苦しかったろう…」情のこもったある班長の説諭が続いた。護国の鬼となるべき当時の若者等が、そのときばかりは目からあふれ出る涙を抑え切れずにいたのである。幾年たっても忘れ得ない唯一の感動の一シーンである。
76	兵庫県	第六期海軍整備科（兵器整備）予備練習生	海軍の下士官で5年以上の経歴を持ったベテランの電気通信の資格を持った3名の方と終戦後（内地に帰還するまで長期になることが想定されたため）新竹の基地から北に移動し、清水という地区に集結して生活のため土地を耕して野菜作り等の作業に全員（約15名）で約3ヶ月の間集団生活をしました。この3名の方は航空母艦に乗り組んでいて南方での激戦で沈没して海に投げ出され、海上を漂い、生死の境を超えて、味方の駆逐艦に救助された方々です。僅かの期間の共同生活ではありましたが、毎日の対話の中で人の命の大切さと尊さ、とことんまであきらめない精神力と力強さ、又、人と人との協調の大切なことを学びました。今の日本の濁世の社会で一番欠けている問題といえます。大変で勇気がいりますがみんなが率先してモラルの向上に努力してゆきたいと思います。
77	兵庫県	海軍予備練習生、航空兵器整備	新兵当時、たまたま視察に来た片足不自由な少将(名は忘れた)に、「若いお前等に頑張って欲しい」と握手された時。感激の余りこの人のためならいつ死んでも構わないと思った。
76	山口県	写真隊	昭和20年初期、洲ノ空内で学校時代の同級生と突然出会った。私は任官していたが彼は新兵である。つまり海軍歴は私が一年先輩になる。そこで私の出来得る歓待をした。故郷を離れて再会した人間の同窓愛は自然に燃えるものであった。

(c) 館山海軍砲術学校

年齢	現住所	所属部隊・部署	勤務時の上官・同僚の思い出
81	宮城県	三期予備学生生徒、 後に対空研究班	安藤憲栄中佐（海兵 51 期）館山海軍砲術学校第 3 期予備学生隊長。海軍の人事局担当者が、娑婆気の多いわがままな学生を指導するのにふさわしい人として選んだといわれるように、高潔温厚な人柄で、皆から慕われており、敬服する人であった。昭和 19 年 10 月レイテ海戦で戦死。
79	茨城県	陸戦科 戦車	昭和 19 年夏、任官と同時に戦車講習要員として館砲士官室に集められた同期生約 30 名はいずれも学生時代は運動部の猛者で、それぞれ体格のよい連中が揃っており、戦車、陸戦の訓練にも熱が入っていた。昭和 20 年になり、我々は 4 期の教官、実施部隊の小隊長等に分けられ、私は横須賀砲術学校の分校のあった茅ヶ崎に派遣され、戦車 20 輦と下士官、兵約 100 名と相模湾防衛の一線に配属された。後、昭和 20 年 4 月頃、土浦方面守備のため第 5 航空艦隊へ配属のため兵と戦車を転属させ、私は横鎮特陸へ転任を命ぜられ、南下浦へ単身赴任した。現地ではすでに海軍工作学校の作業員の手で海岸線に地下陣地（迫撃砲）が築かれていた。
81	千葉県	対空班	元国連大使堀内正巳海軍主計尉は直属の上司、米内光政海軍大臣の秘書官を経て、大本営海軍参謀を勤め、戦史研究家として有名な定松讓海軍大佐が上司であった。
81	東京都	第 3 期兵科予備学生隊	館山の海軍砲術学校で我々の学生隊長であった安藤中佐が我々が卒業して隊列を組んで校門を出て行ったとき、「ああ、また若い人達を死なせなければならないのか」と言ったそうです。これは、終戦後随分たって、未亡人から伺った話です。普段は謹厳な上官でしたが、海軍にはこのような立派な人達がたくさんおりました。ご本人はレイテ沖海戦で名誉の戦死を遂げられました。
80	東京都	予備学生 陸戦班	第三期兵科予備学生時代、館山砲術学校の学生部長（昭和 18 年 10 月～昭和 19 年 5 月）安藤憲栄大佐（当時）は温情あふれる人格者で、常に学生のことを考えてくださった。昭和 19 年の正月に全員帰省できるよう切符まで手配してくださったのに、同期他校から反対の声が起こり、いったん手にした切符を返却させられた。また、任地を決めるに当たり、当時の日本の思想であった、家を中心に考え、長男等家を継ぐ者を後方部隊になるように任地決定をしたと聞いている。

④館山市の思い出

(a) 館山海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	館山市の思い出
73	埼玉県	903 海軍航空隊 館山本部 21 分隊通信科	S21 年 1 月、父と叔母が面会に来て駅近くの旅館で逢いましたが、その後、休暇村館山に宿泊の折り、市内を歩きましたが、判らなかった。又、航空隊の旧正門前が懐かしかった。

(b) 洲ノ埼海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	館山市の思い出
77	岩手県	第 20 分隊	昭和 19 年入隊以来、基礎科教育中 3 ヶ月間一切外出禁止。「カッター教練」で館空まで駆け足のとき、錬兵場教練のあいだに「民間人」を見ると無性になつかしく話し掛けたかった。軍人で訓練しているときは戦争のためときつく強制されていた。汐留橋から外房線に向けて左側に写真屋。兵隊は必ず写真を古里に送った。仲町の南に映画館あり、日曜日はものすごく混雑した。仲町から洲ノ空方面へかぎ型道路の手前の床屋さんによく行った。汐留橋から東へ寺院付近に軍専用食堂がありお世話になった。任官してから那古観音によく行き、その山から見る海は今でもなつかしい。好きな場所だった。
76	茨城県	第 12 分隊（1 月～3 月）第 95 分隊（4 月～9 月）	洲ノ空時代の外出時には那古船形の神社やビワの産地富浦によく出かけた思い出があり、野外演習では南三原、平砂浦、千倉の海岸が印象に残っているが町中の旅館や飲食店、役場等については殆ど記憶がない。
75	茨城県	第六期海軍整備科予備練習生（航空無線兵器専攻）	日曜ごとの外出時（半舷上陸）に休憩、休息の場所として各班毎に一般家庭の居宅が指定されていて利用した。そこのご主人夫婦がともに親切に対応されたことを思い出す。那古船形の果樹園で外出時に枇杷を鰯腹食べられた。夏蜜柑、落花生を食べた記憶も鮮明。
75	神奈川県	整備科予備練習生	入隊前に、北条の通りに面した旅館に兄と一泊した。隣は写真館だった様に思うが、記憶が不正確だ。ただ一つ、私は東北出身なので、館山駅を出た瞬間に、南国の明るい日射し、冬というのに、暖かく別天地に来たように感じた。
76	兵庫県	第六期整備科予備練習生、射爆兵器整備術	私は補欠入隊でしたので、只一人で午後 8 時頃館山駅に着き、駅前の交番で親切に旅館を紹介して頂き、親切な旅館で一泊し、翌朝元気に入隊することが出来ました。2 ヶ月後、初の外出の時、外食券食堂で食べた天井はとても美味でした。小豆を炊いた「ぜんざい」風のを食べたが、全然甘くなくて、少し塩気があるだけだった。砂糖が無かったので、仕方がない。練習生修了後、台湾勤務となり、甘味、果物をたっぷり頂きました。
77	兵庫県	海軍予備練習生、航空兵器整備	那古、船形へ行事(ピクニック様の)した時、入った食堂で食べた丼飯が凄く美味しかった。今時こんな肉が良くも仰山と思ったら、店主曰く「蛙ですよ」…と。

(c) 館山海軍砲術学校

年齢	現住所	所属部隊・部署	館山市の思い出
81	北海道	海軍予備学生隊	神戸村にあった砲術学校の学生だったため、付近の方々は親切であった。白浜方面にも日曜毎に行きましたが、海女の方々の自宅に入れていただき、いろいろとご厚情をいただいたことを感謝しております。
78	岩手県	第三期兵科予備学生陸戦	私は予備学生のクラブとして指定された砲術学校周辺の民家を利用しました。旧館山市の印象、思い出はない。
79	茨城県	陸戦科 戦車	木村屋旅館はよく送別会に使った。その前の旅館（名前は忘れた）もよく使った。駅前に海軍士官用酒保があり、カレーライスをよく食べた。
79	埼玉県	海軍予備学生隊	出征前夜、木村屋旅館に一泊、同期と内地最後の夜を歌いつづけたことは、今でも忘れ得ぬ懐かしい思い出です。旅館の方々の親切な心遣いも、いつまでも忘れることはできないと思います。また、市内の鈴木さんというお米屋さんに、外出のとき立ち寄らせていただき、暖かいもてなしを受けたことも、とても忘れ得ぬ心の思い出です。もし、鈴木さん宅に連絡が取れれば、お礼をいってください。
82	東京都	陸戦班	鏡軒、海岸ホテルには時々行きました。館山の街の中の大きい金物屋さんか乾物屋さんの娘さんを見合いしないかと言われたことがありました。同じく、館山市の駅に割と近い写真屋さんで撮った写真を今でも大切に持っています。店名はいずれも分かりません。
79	岡山県	海軍第3期兵科予備学生隊 陸上対空班	砲術学校近くの安房神社には隊員全員で武装してお参りしたこともあり、また、日曜日の外出時に友人達と共に参りした事もあり、印象に残っております。平成9年秋、戦後初めて砲術学校跡を訪れ、妻と共に安房神社にお参りして、市民の方々にお世話になったあの頃を思い出し、懐かしい限りでした。
77	東京都	第252航空隊戦闘317飛行隊	三河屋食堂を利用（上陸の折り）那古観音での甘酒が記憶に残る。上官に連れられて行った割烹料理屋が思い出されるも場所は不明。生まれて始めてウイスキーを飲み酩酊し上官に世話をかけた事等々。戦後昭和59年6月と平成5年10月と御地を訪れたが国立海員学校が当時の洲ノ崎航空隊の一部を残していたのが思い出深く印象に残った。

⑤館山市民の思い出

(a) 館山海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	館山市民の思い出
73	埼玉県	903 海軍航空隊 館山本部 21 分隊通信科	私が、外出時お世話になり、宿泊させて頂いた家は、航空隊から行って汐留橋を渡り右に2、30メートルの所で、滝沢鉄工所（家内業）といい、そこの子供さんが私と通信学校の同期とのことでしたが、判りませんでした。大変、お世話になった人達です。

(b) 洲ノ埼海軍航空隊

年齢	現住所	所属部隊・部署	館山市民の思い出
78	宮城県	航空無線兵器の整備の教員	練習生当時の我々の話題は空腹とバツターの痛いことにつきますが、戦時下の軍隊は宮沢賢治の詩「雨にもマケズ、風にも云々の」一日玄米四合を三合に書き換えたとかですから、何とか米の飯を喰べたのは軍人だけで一般の市民は配給も遅配、欠配で、もっと苦しかったと思います。
76	秋田県	第六期整備科（兵器整備術）予備練習生	駅から100メートル位の所に、義太夫の好きなご老人がいて、その方のお世話で船員さん（あるいは船長さん）の留守宅があり、戦友と二人の下宿（日帰りの休憩）にさせていただき、下宿料も払わず奥様に親切にしてもらった。
76	茨城県	第12分隊（1月～3月）第95分隊（4月～9月）	洲ノ空時代の9ヶ月については同期2名とともに上真倉の樋口商店に下宿させて貰い外出毎に下宿先を訪ねて心身をいやしてきた。下宿先の樋口とくさんという小母さんは、私達に大変親切にされ、館山のお袋さんとしてお世話いただいた思い出がある。また、外出日には水戸から母が小豆を、もち米、砂糖をもって来て「おはぎ」を小母さんとともにたくさん作って貰い腹一杯食べて帰隊したことが鮮明に記憶している。
76	神奈川県	第63分隊光学兵器高等科練習生	唯一思い出といえば夏に水泳訓練があった時、隊門を出て海岸まで禪一丁で三角になった前面にくっきりと自分の名前が書いてある姿で整然と列を作り「いっち」「にい」々と号令をかけ乍ら前進する。道路の両側には大勢の人が出て「兵隊さんが来たぞ」というのでその間を走って通るわけでその後の訓練を思う時恥ずかしいと思う暇もないのです。（私は18才泳ぎも不得手でした）
77	岡山県	第六期整備科予備練習生 95 分隊電探班	洲ノ空から外出の際に通る洲ノ空隣の「つけもの」工場の従業員（おばさん）達がみんな親切であった記憶がある。両親が面会に来た際詳しく旅館を教えてくれた。
74	山口県	兵器整備術写真練習生 第29期普通科、第27期高等科	兵隊といっても未だ16才でしたが、道を歩いていると枇杷の木が沢山在り、農家の人は親切で「人手がないから採ってやれないが欲しかったら自分で採りなさい」と言ってくれ、喜んでいただいた事がありました。

(c) 館山海軍砲術学校

年齢	現住所	所属部隊・部署	館山市民の思い出
81	宮城県	対空班	館山市民の方々は非常に親切で、毎日曜日の外出が楽しみでした。お世話いただいた民家の方を思い出そうとしても、思い出せません。大変残念です。その当時は、民間の方が食料事情もあまりよくないにもかかわらず、歓待してくださって今もって有難いと思っています。
79	茨城県	陸戦科 戦車	砲術学校訓練中（昭和 18 年 10 月～昭和 19 年 1 月頃） クラブといわれた民家でイモ食事のお世話になった。鶏のすき焼き等腹一杯食べさせてもらったことを覚えている。
81	東京都	第 3 期海軍予備学生隊	館山予備学生の生活にも漸く慣れた頃、布良の漁業者宅と知り合い、同期 3 名と外出時には大変お世話になりました。昭和 45 年、安房神社参詣のみぎりお礼のため立ち寄りましたが、既にご所帯も変わり、分かりませんでした。
81	東京都	予備学生隊 前期 6 分隊 後期 4 分隊 対空班	一般的に、食料に不自由、不足が言われた時でしたが、我々学生には、温かい人情で何処に行ってもすばらしいご馳走をして下さったこと、貴地の皆様の温情の賜と感謝しております。富崎では富崎旅館の皆様が懐かしいですね。今では、すっかり変わってしまったようですが。
83	神奈川県	海軍予備学生隊	「鬼の館砲」の異名通り、その猛訓練は准士官待遇の予備学生にも容赦はなかった。しかしその訓練より、学生が音を上げたのは慢性の空腹感だった。週末になると心身ともに飢餓状態に陥り、日曜の外出が許されると、学生達はいっせいに近くに点在する「下宿」に殺到する。当時、そんな飢えた学生達を快く受け入れた半農半漁の民家（学生達はこれを下宿と呼んでいた）が多数存在していた。もてなしの定番は蒸し芋に落花生、銀シャリと称する白米にとれたての鮮魚が刺身や煮魚に姿を変えて食卓に並ぶ。蘇生と至福がないまぜになった下宿の数時間。あの時、温かな心遣いやおふくろの味がなかったら、館砲校の思い出は「鬼」の一字だけのものになっていたろう。

(5)戦争経験者（市民）の状況

市内に在住する戦争経験を有する市民などに対しては、面接による聴取調査を実施した。なお、収録に際しては、録音、書き取りにより記録した事項を事務局が原稿にまとめ、調査対象者に内容確認を依頼した。また、個人のプライバシーに関わるものについては、本人の了解又は公表資料に基づいて記載した。

ア 小谷義一氏、照枝氏

①概要

小谷義一さんの祖父、小谷市太郎氏は満鉄に勤務後、戦時は旧神戸村佐野に多数の地所を有していたが、館山海軍砲術学校用地として買収された。自宅敷地内には母屋のほかに別棟があり、岡村治信海軍大尉（当時、館山砲術学校海軍主計長、洲ノ埼海軍航空隊主計長、海軍大尉）が下宿していた。岡村海軍大尉は、終戦時、洲ノ埼海軍航空隊で勃発したいわゆる「館山騒動」の当時者の一人である。当時の岡村大尉は、新婚で、新妻とともに別棟二階で生活していた。小谷義一さんは、当時出征中であつたため、面識はないが、小谷家の親戚で、近所に居住していた妻の照枝さんは、小谷家を訪問した際に、夫妻に会っている。



小谷夫妻（岡村大尉が居住していた別棟の前にて）

②調査対象者の属性

○小谷義一

大正11年4月15日、白浜町根本生まれ。

昭和15年中学校卒業後、横須賀海軍航空技術廠を経て、昭和18年から陸軍兵として、南京、上海の中支派遣軍総司令部へ勤務。昭和21年に復員、上海港から佐世保を経て、鉄路で館山へ帰郷。以後、白浜町で暮らす。現在は、農業。

○小谷照枝

昭和3年1月5日、白浜町根本生まれ。

戦後、同じ町内の小谷義一さんと結婚、戦前・戦後同じ場所に暮らす。戦中の一時期、農家でない若い人は女性でも軍需工場で働くため徴用されたが、本人も当工場で働いた経験をもつ。現在は、農業の傍ら専業主婦。



岡村大尉に家を貸した先代の市太郎氏、右はたよ夫人

③館山市内の軍関係の機関・人について

○隧道堀り（照枝さん）

勤労奉仕は部落ごとに交代で従事した。布良の隧道堀りに参加した時は、日本人人夫、朝鮮半島からきた外国人人夫がダイナマイトを操作していた。勤労奉仕の民間人は、2mほどの鉄棒の先に火薬をつめ、地面に突き刺して爆発させ、くずれた土砂をスコップでかき出していた。鉄棒を使った作業を「シンヤをもむ」と呼んでいた。勤労奉仕では1日当たり5円の日当が出た。現在の5,000円以上の価値があったと思うが、新円の切り替えなどがあり、貨幣価値はよく覚えていない。隧道作業は、作業途中で終戦を迎え、完成していないと思う。

○岡村海軍大尉

岡村海軍大尉は、3年ほど当家に居住していた。当時、新婚で20代であった岡村大尉は、東北帝国大学を卒業した方で、おだやかな性格であった。

岡村大尉は海軍砲術学校に主計大尉として勤務していた（岡村大尉の手記によると、洲ノ埼海軍航空隊主計長としても勤務）。当時は、徒歩で館山海軍砲術学校へ通勤していた（手記によると、洲ノ埼海軍航空隊へは自転車で通勤していた）。終戦時は、公金を取りに横須賀へ行ったと聞いている（手記によると、洲ノ埼海軍航空隊解隊時の将校・兵への復員給与（給与・退職金等）を手当てするため、岡村大尉は横須賀へ公金約1,241万円の受理に出張している）。戦後は裁判官になられ（手記によると、戦後は横須賀鎮守府軍法会議検察官職務執行となって、館山騒動の捜査に従事）、現在は横浜市金沢区にお宅があると聞いている。戦後、当家へ立ち寄ったこともある。

岡村婦人は、普段から和服を着衣し、上品で静かな女性であった。

終戦の玉音放送は、ラジオを保有していた小谷家で、家族、親戚、近所の人とともに聴いた。その中に岡村夫人もいた。当時はラジオは貴重品で、小谷家にしかなかったが、音質が悪く、また、終戦の詔勅が難解であったため、参列者のほとんどが内容を理解できなかった。この中で、岡村夫人だけが、放送の内容がわかったのか、突然泣き出したため、涙の理由がわからず、大変おどろい



写真左：小谷家の母屋の様子。家屋は当時のまま。写真右：岡村大尉夫妻が生活をしていた別棟二階。母屋の奥手に別棟がある。建物はベランダなどを除けば当時のまま。

た。その後、終戦を告げる放送と分かり、大変教養のある方だと感じた。

○館山海軍砲術学校の予備学生

館山海軍砲術学校の予備学生が着ている軍服から、地元では学生達を「ジョンベラ」と呼んでいた。

予備学生は、22～23歳の若者で、皆食べ盛りであった。学校が休日の日曜日は、10人前後で、砲術学校から歩いて根本まで遊びに来ていた。根本の民家から芋やササギ（メリケン粉の団子）を振舞われて、美味しそうに食していた。たくさん食べすぎて、翌日の月曜日に腹の調子が悪くなると、学校では「月曜カタル」にかかったと呼んでいたという。厳しい勤務の中で、わざわざ歩いて根本まで足を運ぶ若い学生をみて、不憫だと感じたこともあった。

その当時の料理の振る舞いを、各民家の善意で行っていたのか、砲術学校かどこからかお金を得ていたのかはよく分からない。

図表 2-30 館山騒動について

「館山騒動」は、終戦直後、洲ノ埼海軍航空隊の軍人、出入り商人などが、混乱に乗じて多量の軍需品の隠匿横領を画策した事件で、厚木事件と並んで海軍の敗戦時二大汚点事件として有名である。岡村大尉は事件首謀者の上官と対立したため、一時は暗殺、監禁されたとの風説がながれたが、手記によると、その時期は小谷家にいて難を逃れている。

岡村大尉の手記では、小谷家について、次のような記述がある。

「めまぐるしかった洲崎航空隊の終戦業務が一段落して、完全に隊からひきあげてしまうと、私の身辺は急に気がぬけたように静かになった。その八月二十七日、当面の仕事をおえ、夜遅くなって根本の下宿に帰ったときには、心身の激動による疲労感がいっぺんに噴きだしてきて、倒れるように布団にはいった。

根本というのは、房総半島の最南端部、館山から白浜にいたる県道に沿った小さな集落である。私は館砲校勤務のころから、ここにある農家の別棟を借りて下宿としていた。付近はまことに閑静な半農半漁の田園と海岸地帯がつづき、空襲の危険もないうえに、館山市内とちがって、仕事上で関係のある取引業者との接触を避けられる利点もあった。

もちろん仕事が忙しくて、隊内に寝泊りすることもおおかったが、たまの休日などには、この下宿でのんびりと暮らすのが楽しみだった。」

資料：岡村治信「海軍「館山騒動」事件始末」『丸』潮書房（平成6年）

④戦争体験について

海軍航空隊があったため、館山市では飛行機の墜落などがあったが、根本は比較的穏やかな日が続いていた。

17歳の時に艦砲射撃を経験した。B29が飛来するようになり、白い手ぬぐいなどを日中かぶると危険だということで、頭にかぶる手ぬぐい、帽子などは黒色のものに変えていた。B29は偵察目的で飛来したといわれ、爆撃などはなかった。B29の編隊は3機ずつ飛来し、日中は機体がピカピカと光っていた。味方が高射砲で応戦するが、B29まで届かなかった。

当家では戦争の被害はなかったが、姉の家屋が米軍の機銃掃射を受けた。耳が遠い地元の高齢者が空襲警報に気づかず、白シャツで往来中、米軍の標的になったため、攻撃を受けたといわれている。

当時は、1軒に1つ防空壕があり、当家にもあった。終戦間際、危険だということで、家財道具を壕内に入れたが、地面の湿気で傷んでしまった。

当時、海女が「もうろく」という作業着を着てテングサ取りに沖にでていたが、浜役といわれる旗振り役がいて、空襲警報の時は、旗を振り危険を知らせた。

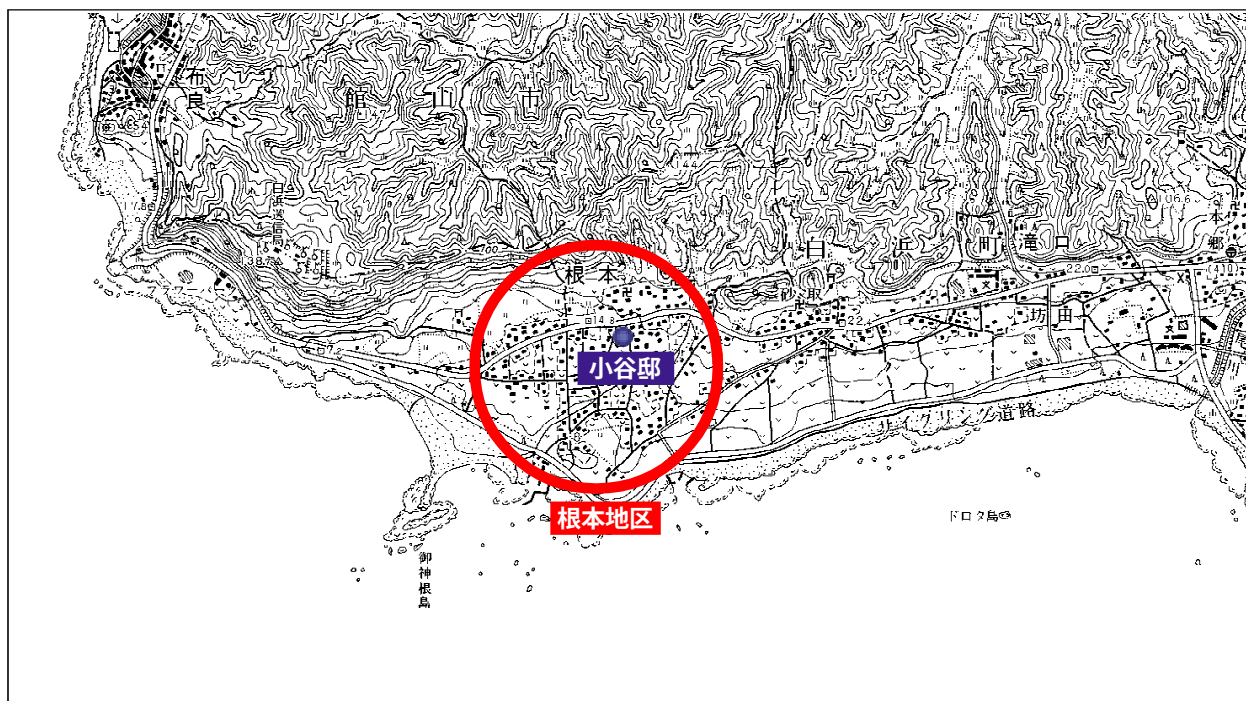
⑤当時の館山市について

消費は自給自足、地産地消型で、館山市へ買い物に行くこともほとんどなかった。魚売りや酒屋などからの購入以外は、味噌、漬物などすべて自家産のものだった。食事は、当時の主食は、米3合、麦5合の割合でご飯を炊いていた。

館山市へは年1回、木炭バスに乗って買い物に行った。木炭バスは、スピードものろく、きつい坂道（切り割の坂）は登りきれず、乗客はすべて降りて、歩いて坂道を登った。道路は舗装されていなかった。

館山市内では、洒落たレストランの鏡軒、洋品店のオバタヤ、扇屋などを利用した。銀座通りは、日曜日には海軍関係者が沢山歩いていた。

図表 2-31 白浜町根本地区



イ 黒川新司氏

①概要

黒川新司さんは、当時安房水産学校の学生。黒川さんが住んでいる波左間地区には、第59震洋隊の発進基地があり、波左間地区の後背山手の格納壕には50以上の「震洋」があったと地元では伝えられている。



黒川新司さん（海の家マリステーションハサマにて）

②調査対象者の属性

昭和6年9月4日、館山市波左間生まれ。戦後も波左間地区で生活が続け、現在は、海の家「マリステーション ハサマ」代表。

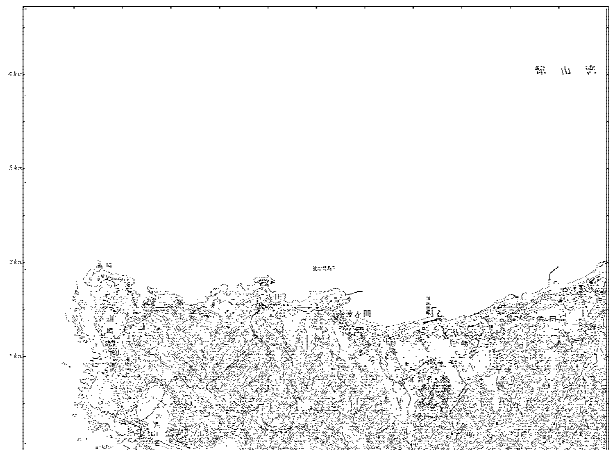
③館山市内の軍関係の機関・人について

○軍事施設への立ち入り等について

戦時中は、航空隊内への立ち入りはしていなかった。震洋の演習も覗いてはだめだといわれていた。砲台が砲撃した時は、地響きがした経験がある。終戦後、アメリカ軍が砲台を爆破するというので、その様子を見に行った。

○見聞したエピソード・思い出について

当時、震洋に乗り込む特攻隊員が配属されているといわれた。震洋は、波左間の後背山地につくられた格納壕に50艇ほどあったといわれて



現在の波左間集落の様子。戦中の民家は一軒も残っていない。写真左手前の民家は、戦後建てられているが、戦前の面影を残す唯一のもの。

いるが、当時は詳しくは知らなかった。実際は30艇ほどではないかと思う。震洋の訓練は夜間に行われるといわれ、夜間になると、艇が湾内を行き来する音が自宅でも大きく聞こえた。

戦後になって、残された震洋をみた。立派な艇を想像していたが、実際の震洋は、ベニヤ板でベコベコの状態で、ボートの先端に爆弾が搭載できるようになっており、その後部にエンジン、座席がついていた。鉄の棒でつついてみると、簡単に穴が開いてしまった。残された銃剣もみたが、軍用以外に民間から徴発した猟銃などもあって、物資が不足していた日本の実情がわかった。

そのほかに、ドラム缶が多数散らばっており、開封したらガソリンとは異なって青色の航空機燃料が入っていた。

進駐軍（アメリカ軍）は、ジープで波左間の集落までやってきた。当時、米兵から乱暴されるというので、一時、女子は身を隠した。

○軍人・軍属との係わり合い・ふれあい・思い出等について

波左間の集落で飲食する第59震洋隊の兵士もおり、酒を飲むと日本刀を抜いて暴れた。兵士の年齢は20～25歳位、地元の人は怖くて寄りつかなかった。また、特攻とは別に、当時、陸軍の満州帰りの軍属もおり、山の防空壕を掘ったが、地元の人たちとの接触はなかった。

このように、兵士と地元民との交流は全くなかったため、軍内部の様子はほとんどわからなかった。軍関係者は意識的に地元民との交流を避けていたように思える。

戦争末期で物資が困窮してきた時期には、兵自身が定置網を使って漁を行っていた。

④戦争体験について

安房水産学校1年の時に爆撃があった。グラマン機からの機銃掃射があった。波左間の集落が被害にあったことはないが、漁船が銃撃されたことは聞いたことがある。横須賀に向かうB29の機影を見たことがある、青空に飛行機雲が残っていたことを憶えている。戦争末期、週二回程度の勤労奉仕に借り出された。山頂へセメント袋を担いで登った。セメント袋は約60キロあった。トロッコ作業などもした。

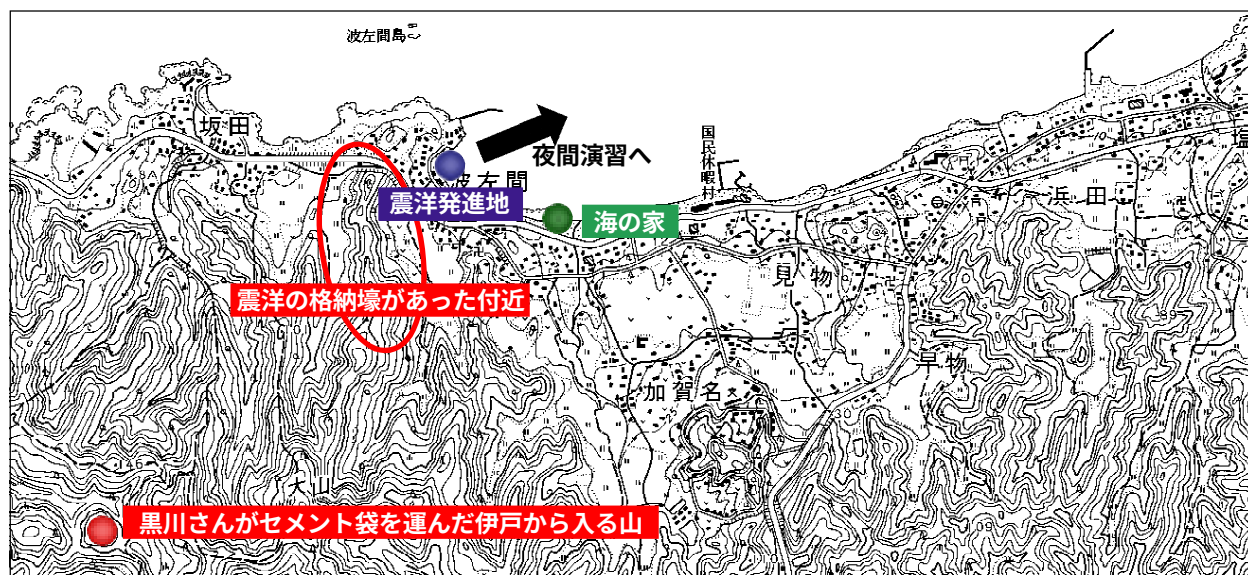


震洋の発進地跡



格納壕から震洋を移動した道

図表 2-32 波左間地区と震洋の発進地の場所



⑤当時の館山市について

現在、海水浴場となっている波左間の海岸は、要塞地域となってからは一般の利用はできなくなり、泳ぎに来る人もいなく、漁師の網干し場として利用していた。

当時の波左間集落は、雑貨屋1軒、駄菓子屋1軒があり、自分の家が駄菓子屋を営んでいた。集落のうち2軒は、兵士の宿舎として家屋を貸し出しており、そこで兵士が生活をしていた。航空隊の兵士との交流はほとんどなかったが、学校には配属将校がいて、軍事教練などを受けた。

ウ 佐々木理氏

①概要

佐々木理さんは、笠名地区で親子2代で建具業を営んでいる。当時は小学生で、笠名地区が館山海軍航空隊に県道を挟んで隣接していたため、館山海軍航空隊に係る事件を多数見聞している。また、航空隊への敵攻撃のあおりを受け、終戦間際に自宅を焼失している。



佐々木理さん（自宅にて）

②調査対象者の属性

昭和7年5月14日、館山市笠名生まれ。終戦間際の8月5日の空襲で自宅を焼失した後、約1年間西ノ浜へ疎開をしたが、自宅を再建後は笠名地区に在住。現在は、佐々木建具店代表。

③戦争経験について

○B29の飛来

館山小学校での清掃時間、校庭の片隅で同級生とベーゴマで遊んでいた。教頭から掃除をするよう注意を受けている時、四発陸上機が飛来してきた。今まで見たことがない機であったため、「上空に変な飛行機がいる」と教頭に話をしていたら、突然「敵機だ!」と叫ぶ声があって、あわてて校内の防空壕へ避難した。教頭は職員室へ行き、非常ベルを「ジー・ジー」と10回程度連呼した。生徒は蜘蛛の子を散らすように壕へ避難してきた。

その後、城山の砲台がドカンドカンと砲撃を開始し、敵機を攻撃した。しかし、高度が届かない。敵機は高度を保ったまま、城山上空を通過し、南の空に消えた。その後、「敵機

図表 2-33 館山小学校の概要（写真は昭和30年代）



遁走しつつあり」とのラジオ放送があった。それが館山最初の空襲だった。

その後だいぶ経ってから、川崎（市内正木）地区へ焼夷弾が投下された。その際に高野山妙院寺が焼失したと聞いた。エンジンを製作していた軍需工場・池貝鉄工所を狙ったといわれている。

○館山市最初の空襲（昭和19年11月頃）

当時、全国的に空襲が激しくなっていた。赤山にはポールが3本建っており、その日は、その一つに信号旗が掲げられていた。同級生がそれを見て、「赤山の3本のポールの中に信号旗が登ると空襲がある」と噂していた。

学校がひけて家にカバンを置いた後、先輩・同級生30人ばかりと組み分けをして、メジロ取りにでかけることになった。メジロを取るためには罠のための種メジロが必要なため、種メジロを探しに出かけた。その時、ラジオから「関東地区関東地区～、敵機襲来中」の放送が始まった。空を見上げると、50機ごとに編隊を組んだ2編隊のB29（計100機）が、上野原から北北西へ機体をギラギラと光らせながら通過していた。

そのうちの1機が編隊から離れ、館山上空へと方向を変えた。ゼロ戦がすぐに飛来したが、左旋回して着陸してしまった。すぐに城山の砲台が砲撃を始めたが、高度が低くて、敵機まで砲弾が届かない。防空壕から双眼鏡をのぞいていた将校が「落ちた、落ちた」と叫んだとたん、ゴロゴロと空を割るような音がして、自分達がいた場所から300メートル離れた道場（現在の館山自動車学校付近）に爆弾がおち、大きな爆発があった。

爆風から身を守るためには、両手で耳・目・鼻・口を覆うよう学校で教わっていたため、両手で顔を覆って地面に伏せた。同級生も同じように地面に伏せ、丁度、扇のような形になっていた。

強い爆風を感じ、その後、瓦、雨戸などの落ちる音がした。自分達の近くには、鋭利な刃物のような爆弾の破片が転がっており、仲間のうちの3人が怪我をしていた。先輩の一人が「早く逃げろ」と叫んだ。同級生は、不思議なもので、それぞれの自宅の方向へ向けて四方八方一目散に駆け出した。逃げる方向が危険な者もいたが、こういうのが帰巢本能なのかと感じた。その時の空襲と爆発で3人の人が亡くなった。その中には新婚の人もいた。今年（平成14年）、愛媛から一人の女性が、私の義姉を訪ねてきた。義姉は戦前、洲ノ埼海軍航空隊の事務をしていた。女性は義姉に、館山最初の空襲の犠牲者の妻だといい、「夫が死んだ場所で線香をあげたい」といった。その女性は、結婚してわずか10日目だったので、籍に入っておらず、直ぐに里に返され、その後、遺族年金ももらえず、生活は苦労したという。

○二度目の空襲（昭和20年2月16日）

最初の空襲を忘れかけた昭和20年2月16日の朝、自宅で朝食を食べていた。館山小学校への通学は、自宅近くの笠名橋に近所の子どもが集まって、集団で登校していた。集合時間は7時30分だったので、その時は7時15分頃だったと思う。

近所の友達は、笠名橋へ行く途中、私の家へ寄ってから一緒に橋まで出かけていた。バリバリと

音がし、その友達が「飛行機が燃えている」と叫ぶ声がした。当時の私の家は、館山海軍航空隊の獅子部隊と高さ2メートルの板塀を境に接していた。当時、周囲には高い建物がなく、家の2階からは現在の海上自衛隊館山航空基地の滑走路のあたりが180度見渡せた。見ると駐機していたゼロ戦4機をはさんで両脇に一式陸攻2機が飛行していたが、真ん中の2機が黒煙をあげて炎上している。上空からグラマン1機、ボートスコール1機が飛来して攻撃したため、たちまち残りの4機も燃え出した。

その後、直ぐにサイレンが鳴り、私たちは通学できず、午後4時頃まで我が家の近くの防空壕の中にいた。防空壕は家の脇の森の下に岩盤があり、そこに掘られていた。

グラマン機が来てから、味方も対空砲火で応戦し、曳光弾があがって、陣地がわかると、爆撃が始まった。遠くに離れている時は、ダダダダダと聞こえていた爆撃音も、近くになるとバリバリと聞こえた。

B29は晴れた日や夜間でも来たが、グラマン機は雨天や晴天の日は来ず、曇天の日中にやってきて、味方の攻撃が始まると、雲の中に隠れてしまう。

○グラマンの機銃掃射に遭遇

当時、近くの神社に7～8人で集まっていたが、飛行機が飛来する音がして、先輩が「敵機だ！逃げたほうがいい」というと、爆弾が落下する音がした。そのとたん、ドカンと爆発があり、友達が「いてー、やられた」と叫び、見ると飛んできたレンガの破片が足にあたり、甲、脛が血だらけになっており、ピョコタン、ピョコタンと歩いている。大通りに出ると、道路一面にレンガが散乱し、足の踏み場もない状態になっていた。レンガの中をつま先立ちで逃げた。

大通りを逃げていると、「早く来い」と大人の呼ぶ声がする。「敵機だ！伏せろ」という声がしたので、道路脇のドブへ飛び込んだ。ドブといっても素掘りのままで暗渠となっておらず、また水も流れていない空掘りであった。ドブに飛び込んだとたん、バリバリと機銃掃射を受け、地面を3発の弾がはじけるのが見え、パイロットが振り返って自分を確認するのが見えた。

安楽寺通路を入ると、小隊の兵士が100人以上いて、その小隊長が私に声をかけてくれたことが分かった。その後も15～20分ごとに波状攻撃が続いた。

空襲警報が解除となり、小隊の兵が整列した。小隊長が「爆撃地を見に行く」といって、爆撃地に移動をはじめた。私も兵の後について爆撃地まで行った。爆撃地は現在の海員学校の官舎あたりであった。兵器庫に命中したため被害が甚大だった。洲ノ埼海軍航空隊の司令部を狙ったといわれている。爆撃で生じた穴は、直径30m、深さ15mほどもあり、岩盤内の断層がはっきりと確認できた。近くの50坪ほどの新築の家屋が岩でペタンコに潰れていて、たまげた思いがした。

その時、憲兵隊がやってきて「兵は原隊へ帰れ」と指令がとんだ。その後、私たちのほうへ向き、「貴様たちも自分の家へ帰れ、ここは立ち入り禁止だ！」「ここに爆弾が落ちたのを誰にも言うな！」といわれた。

○二度目の機銃掃射

宮城地区に戦闘機を掩体壕に入れるための滑走路が南北150 mにわたって走っていた。通学・帰宅途中にその場所を通過するが、学校からの帰宅中、その場所に差し掛かった時に空襲警報が鳴った。宮城橋のところでドブに入って身をかわすと、「橋の下が安全だ！」と友達が呼んだ。子ども7～8人で橋の下に入ると、機銃掃射の後、50 kg爆弾が落ちてきた。「橋がおちる、逃げろ！」と声がすると、7～8人いた仲間は、一目散に駆け出した。「左、敵機」の声がすると、グラマン機が低空で飛んできて、機銃掃射を行った。高度が高く自分たちには当たらないととっさに分かったが、「戻れ、戻れ」の声もした。

50 mほど走り、ようやく笠名橋まで逃げると、橋の下に12～13人ほどの兵隊がいた。グラマン機は、川の水面を機銃掃射し、左旋回した後、逃げていった。兵士の一人が「ここは危険だ。他に逃げろ」と言うので、大通りに出ると、グラマン機が再び飛んできた。道の脇にあった通行人用の防空壕に入ろうとすると、「ここは一杯。こちらに来るな」といって入れてくれない。別の防空壕に逃げると、P51が4機飛来し、一番機が下を指差している。私は雨戸を防空壕の入り口に立て、敵機にみられないように衝立にした。

その時、味方の砲撃が始まり、高度を下げたP51機に命中した。エンジンが脱落し、尾翼の付け根から2つに折れて胴体がふぁーと墜落した。

○自宅の焼失（昭和20年8月5日）

夜12時頃、「東京湾より房総半島に向け、敵機遁走中」とのラジオ放送が流れ、夢うつつで聴いていた。「今日の敵機は高度が低い。防空壕に入れ」と空を見ていた父親がいった。家の防空壕に入るや否や、建具工場にいた父親が、「家に落ちた」と叫び、家財を家から運び始めた。見ると火が渦巻いており、「あきらめろ。もうだめだー」と父親が叫んだ。

私は寝巻きのままであったので、まだ火がついていない二階に戻って、服を着替えた。今思うとおかしいが、布団をたたんでいた。また、当時はラジオが貴重品だったから、柱からラジオをはずし、防空壕へ運んだ。それからもう一度、勉強道具を取りに二階にあがり、廊下に出たところで急に意識がなくなった。気がつくと、二階の廊下に穴が開き、私は縁の下まで落ちていた。不思議と怪我はしていなかった。父親の声がして、縁の下を這い出ようとして、父親から体をひっぱってもらい、ようやく脱出した。自宅が燃え出して危険なため、現在のかいた村にあった洲ノ空の防空壕へ避難した。

逃げながら自宅の方向を見ると、当時大房と布良に設置されていた探照灯の光が十文字に交



焼失前の佐々木邸

差したとき、巨大な B29 が映し出された。

消防自動車は当時市内には 4 台しかなく、洲ノ空の兵士が 2 本のホースをひっぱってきた。隣家も燃えており、近所の主人が、兵士を突き飛ばし、ホースを奪って自宅に放水していた。

自宅が炎上するのを目の当たりにして、子供心に「必ず一生のうちに、家を元通りにする」と誓った。その後、27 年目に自宅を元通りに復元した。

○大賀海岸での体験（昭和 20 年 7 月頃）

日本が制海権・制空権を失ってから、警戒警報と空襲警報との間隔がどんどん短くなっていた。

そうした中で、学校の先輩・同級生 30 人とワカメ島へ潜りに行くことになった。当時は、水泳が上手な子どもは「泳ぎ」ではなく、「潜り」遊びを楽しんでいた。この日、横須賀に 300 機の空襲があり、ポールに Z 旗が立った。（Z 旗：日本海海戦の時に使った旗で、「皇国ノ興廃此ノ一戦ニアリ 各員一層奮励努力セヨの意。」）

約束の 12 時に集合場所の砂山（現在の千葉大学臨海実習所付近）に行ってみると、自分を入れて 3 人しか集まっていない。「変だなあ」と思いながら、私たちは海に潜るため、浜に出てヨモギの葉をもんで水中眼鏡にこすりつけた（こうすると水中眼鏡が曇らなかった）。洲崎灯台のほうをみると、カラスのような黒い飛行隊が飛んでいる。敵機だと分かって、水からあがって浜から松林まで避難していると、グラマン機が飛び込んできて、バリバリと機銃を撃ってきた。このパイロットも打った後、振り向いて自分のほうを見た。近くの防空壕に入ると兵士がいたが、グラマン機に壕の場所が見つけられたため、兵は壕から避難し、同級生 3 人だけが残された。兵の一人が戻ってきて、「ここは敵機に見つかったから、避難しろ」というので、松林の中を移動した。途中で高射砲の攻撃があって地響きで体が浮くような感じがした。高射砲の破片が落下して危険なため、砂浜に避難したら、黒線二本帽の兵士が手招きして自分たちを呼んでいる。そこは陣地で、5～6 段の階段を下ると、裸電球に照らされた巨大な空間があった。驚いたことに、そこに集合場所に来なかった 30 人の先輩・同級生がいた。小隊長から「こんな日に泳ぎに出て、あきれた連中だ。このバカヤロー」と厳しく叱責されたが、難を逃れ、仲間と再会できたので、内心は安堵していた。

その時、兵の一人が「小隊長殿。変なものが降ってきております。」といった。小隊長が「変なものとは何だ！」と言ったが、兵は「変なものです」と要領を得ない。小隊長は確認をしに、表へ出て行った。私たち子どもも興味があり、ゾロゾロと後に続いた。見ると、雲の中からギラギラと光るモノが落下している。小隊長は兵に命じて落下物を取りにやらせた。兵が拾ってきたのは長さ 40cm の銀色のボール紙だった。それを見るなり小隊長が「これ電波妨害のためにまかれたを錫だ」と言い、拾ってきた兵に向かって「これは錫だから直接接触すると危険だ」と言った。拾ってきた兵はあわてて手を洗いに行ったのが印象的だった。

○100 両の戦車（陸軍）

夜中 12 時頃、憲兵隊からの回覧板が回り「戦車 100 両通過のため、外出禁止」の命令が出た。戦

車通過の日、母親と窓から見ていると、最初に憲兵を乗せたサイドカーが行ったり来たりしており、その後、軍旗を奉じた兵がサクサクと4列で行進していった。将校は日本刀を身につけていたがどれも白い包帯でくるまれていた。

戦車はブルトラーグぐらいの大きさで、砲を後ろ向きにして次々と通過していった。砲の先端も包帯でくるまれていた。駅から平砂浦へ運び、輸送船でそこから中国へ送り込んだと聞いている。

また、これとは別に、ある日のこと、通過する戦車をみていると、そのうちの1両が進行を誤って溝に脱落し、電柱にぶつかった。「貴様、戦地ならどうなる」と、戦車兵は上官にどなられ、ビンタを食った。

○戦後の発砲

終戦後の8月20日夜8時頃、家の前に下宿していた航空隊の将校が不要になった持ち物をくれるというので出かけていった。隊へ着くと、門番をしているのはいつもの新兵ではなく、下士官2人が銃剣付の銃をもって立っており、普段と違う緊張感があった。その時、復員する兵士を乗せたトラック3台が、隊の門を通過していた。3台のトラックが走り去ろうとしたとき、突如将校の一人が追いかけて道路に出てきて、「止まれ」と言ってトラックめがけてピストルを発砲した。続いて門番の下士官も発砲した。「止まれ、戻れ」の声がして、トラックはバックしてきた。トラックに乗っていた兵士は全員下ろされ、二列に並ばされた。「終戦になって隊がなくなるといっても、営門に敬礼をしないとは何事か！」と将校が叫び、列の左右から二人の下士官が兵士全員に往復ビンタをあげた。

幸い死傷者がでなかったが、もし弾が当たって怪我でもしたら、戦争が終わっているのにかわいそうだと、兵の身を按じた覚えがある。